

Ⅲ 県外観光客動態調査

1 概要

● はじめに

本調査は、観光施策の基礎資料とすることを目的に、高知県内の観光地 10 地点で四季ごとにアンケート調査を実施し、結果をとりまとめたものである。

調査精度の均一化を図るため、調査員による対面聞き取り方式のアンケート調査を実施。時間帯も 10 時から 17 時頃まで偏りがないように調整しながら調査している。あわせて 1 グループに 1 名（1 回答）を徹底した。

なお、暦年調査のため、四季別データは冬春夏秋の順で表示した。

● 調査場所（10 地点）

室戸岬、モネの庭、アンパンマンミュージアム、龍河洞、高知城、桂浜、土佐和紙工芸村、黒潮本陣、四万十川、足摺岬

● 調査時期

- ・ 冬季：令和 7 年 1 月 3 日～令和 7 年 3 月 9 日
- ・ 春季：令和 7 年 4 月 29 日～令和 7 年 6 月 1 日
- ・ 夏季：令和 7 年 7 月 5 日～令和 7 年 8 月 23 日
- ・ 秋季：令和 7 年 10 月 4 日～令和 7 年 11 月 23 日

※ 1 日で十分なサンプル数を得ることができなかった調査地では複数日で調査を行っている。

- ・ 冬季：モネの庭、黒潮本陣（各 2 日間）
- ・ 夏季：モネの庭、龍河洞、四万十川（各 2 日間）
- ・ 秋季：モネの庭、土佐和紙工芸村、足摺岬（各 2 日間）

● 調査結果の概要

「1泊2日」が38.9%で最多。県内旅行日数は0.1日減少で2.1日。

日帰り客と宿泊客の割合（表3-1）は、前年と比べた変動幅は小さいものとなった。1泊2日が前年比1.3ポイント増加の38.9%と最も多くなったほか、令和3年度からの5年間で3泊4日は令和5年度と並んで最大、4泊5日は最小となっている。

県内旅行の平均日数（図5-1）は前年比0.1日減少の2.1日。主要な発地ブロックではいずれも大きな変動がなかった。

5年間の調査で「関東」が最大、「近畿」は最小。

発地ブロック別入込割合（表4-1）は、令和3年からの5年間で、関東が最大の16.3%で増傾向にあり、その一方で近畿は最小の26.9%となり減少傾向がみられる。

前年から「友人知人」が増加、「1人旅」は減少。

旅行形態割合（表8-1）は、前年比で友人知人が2.6ポイント増加の14.6%、1人が1.5ポイント減少の14.1%となり、その他の旅行形態は大きな変動がなかった。同行者数割合（表8-2）は、前年比で1人だけが減少となった一方で、2～3人や4～5人が微増と複数人での旅行が増加。

県内平均消費額は、過去最大を更新する30,937円。

県内平均消費額（図10-1）は、前年比で1,220円増加の30,937円と令和3年度からの5年間で最大となり、交通費以外の費目においても最大となった。

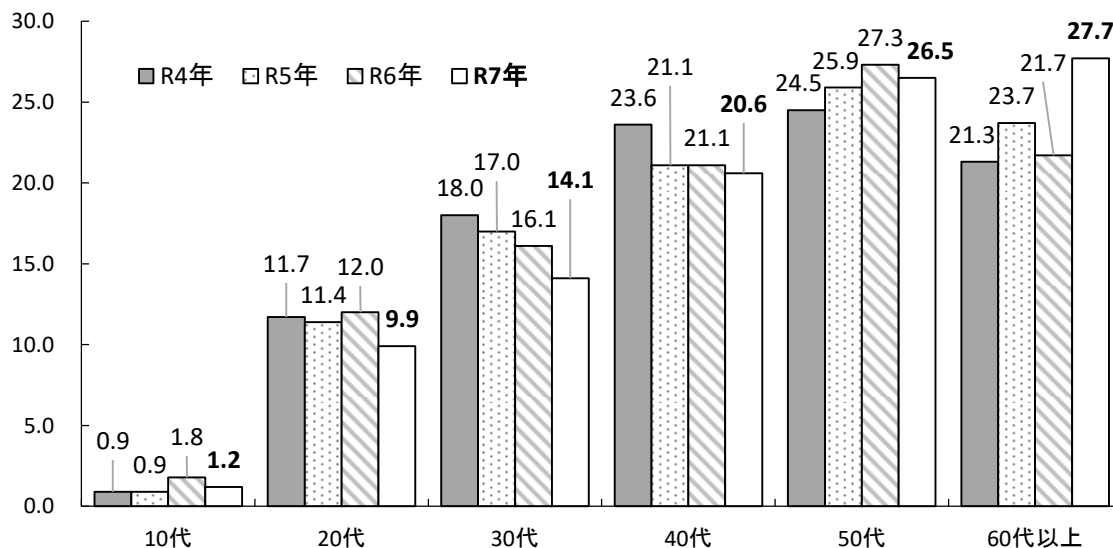
四季別（表10-2）では、年間を通して30,000円台となったものの、令和6年秋季をピークに減少傾向がみられる。

2 年代別入込割合

(表 2-1) 年代別入込割合(上段:件 下段:%) [R4 年~R7 年]

	R4 年 (n=2,993)	R5 年 (n=3,103)	R6 年 (n=3,049)	R7 年 (n=3,137)	対前年比 R7 年/R6 年
10 代	28 0.9	29 0.9	55 1.8	36 1.2	66.7%
20 代	350 11.7	352 11.4	365 12.0	311 9.9	82.5%
30 代	540 18.0	528 17.0	490 16.1	441 14.1	87.6%
40 代	706 23.6	653 21.1	644 21.1	647 20.6	97.6%
50 代	733 24.5	805 25.9	833 27.3	832 26.5	97.1%
60 代以上	636 21.3	736 23.7	662 21.7	870 27.7	127.6%

(図 2-2) 年代別入込割合(%) [R4 年~R7 年]



(表 2-1 参考①) 年代別性別割合(上段:件 下段:%) [R5 年～R7 年]

	R5 年 (n=3,103)		R6 年 (n=3,049)		R7 年 (n=3,137)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
10 代	12 41.4	17 58.6	36 65.5	19 34.5	23 63.9	13 36.1
20 代	213 60.5	139 39.5	239 65.5	126 34.5	209 67.2	102 32.8
30 代	321 60.8	207 39.2	307 62.7	183 37.3	272 61.7	169 38.3
40 代	406 62.2	247 37.8	419 65.1	225 34.9	422 65.2	225 34.8
50 代	535 66.5	270 33.5	545 65.4	288 34.6	579 69.6	253 30.4
60 代以上	503 68.3	233 31.7	472 71.3	190 28.7	601 69.1	269 30.9
計	1,990 64.1	1,113 35.9	2,018 66.2	1,031 33.8	2,106 67.1	1,031 32.9

年代別入込割合をみると、60 代以上が 27.7%と最も多く、次いで 50 代が 26.5%、40 代が 20.6%と続いている。前年と比べ、60 代以上が増加し、その他の年代が減少している。

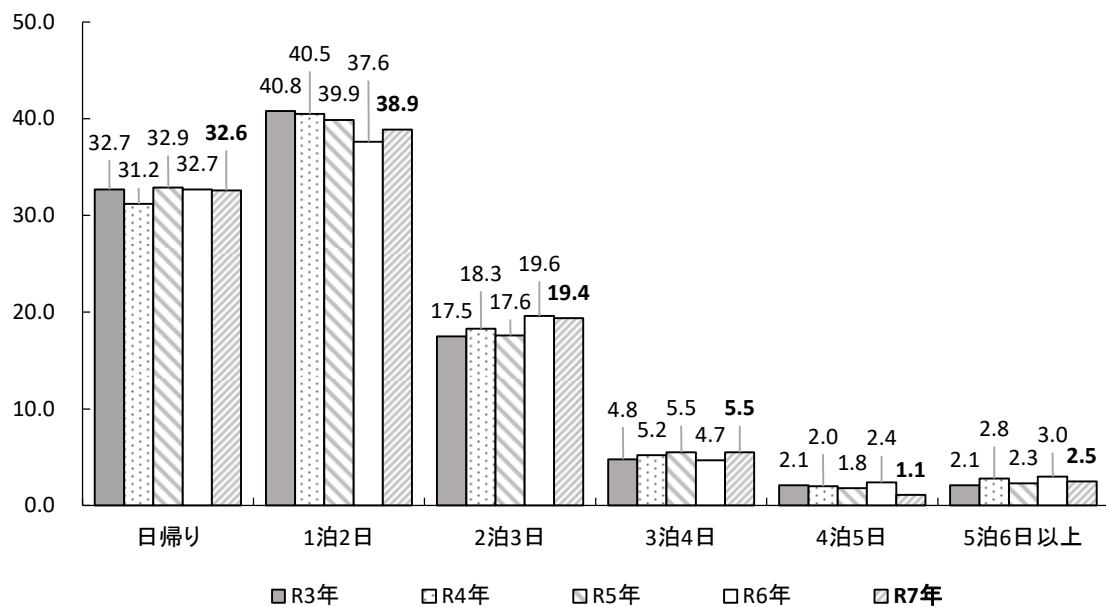
男女比は、男性が 67.1%、女性が 32.9%となっており、すべての年代で男性の割合が、女性の割合を上回っている。

3 日帰り客と宿泊客割合

(表 3-1) 日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [R3 年~R7 年]

	日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
R3 年 (n=2,460)	805 32.7	1,003 40.8	432 17.5	118 4.8	51 2.1	51 2.1
R4 年 (n=2,993)	934 31.2	1,211 40.5	549 18.3	155 5.2	61 2.0	83 2.8
R5 年 (n=3,103)	1,021 32.9	1,238 39.9	547 17.6	170 5.5	56 1.8	71 2.3
R6 年 (n=3,049)	998 32.7	1,145 37.6	599 19.6	142 4.7	74 2.4	91 3.0
R7 年 (n=3,137)	1,024 32.6	1,222 38.9	608 19.4	171 5.5	35 1.1	77 2.5

(図 3-2) 日帰り客・宿泊客割合(%) [R3 年~R7 年]



日帰り客と宿泊客の割合をみると、1泊2日が38.9%と最も多く、次いで日帰りが32.6%、2泊3日が19.4%と続いている。

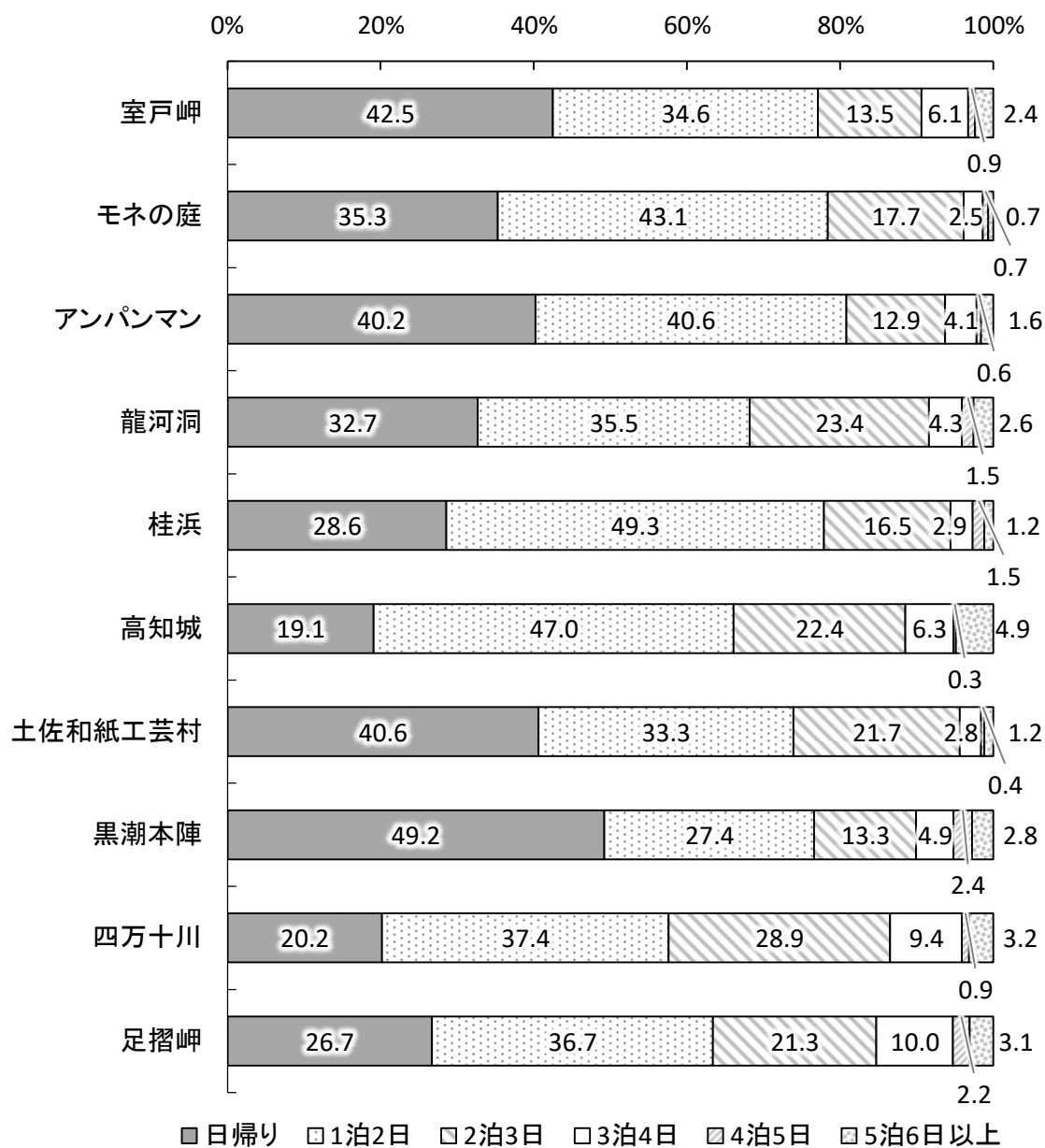
前年と比べ、1泊2日が1.3ポイント、3泊4日が0.8ポイント増加しており、4泊5日が1.3ポイント、5泊6日以上が0.5ポイント減少などとなっている。令和3年度の調査から通してみると、3泊4日の割合は令和5年度と並び最大、4泊5日は最小となっている。

(表 3-3) 四季別日帰り客・宿泊客割合(上段:件 下段:%) [R6 年、R7 年]

		日帰り	1泊2日	2泊3日	3泊4日	4泊5日	5泊6日以上
冬	R6 年	202	234	108	24	23	38
		32.1	37.2	17.2	3.8	3.7	6.0
	R7 年	201	291	124	33	9	34
		29.0	42.1	17.9	4.8	1.3	4.9
春	R6 年	286	284	178	47	13	14
		34.8	34.5	21.7	5.7	1.6	1.7
	R7 年	258	322	170	51	8	16
		31.3	39.0	20.6	6.2	1.0	1.9
夏	R6 年	272	286	157	45	25	28
		33.5	35.2	19.3	5.5	3.1	3.4
	R7 年	285	294	153	51	7	20
		35.2	36.3	18.9	6.3	0.8	2.5
秋	R6 年	238	341	156	26	13	11
		30.3	43.4	19.9	3.3	1.7	1.4
	R7 年	280	315	161	36	11	7
		34.6	38.9	19.9	4.4	1.3	0.9

四季別に前年と比べると、冬季は1泊2日が4.9ポイント、3泊4日が1.0ポイントの増加、日帰りが3.1ポイント、4泊5日が2.4ポイントの減少など。春季は1泊2日が4.5ポイント、3泊4日が0.5ポイントの増加、日帰りが3.5ポイント、2泊3日が1.1ポイントの減少など。夏季は日帰りが1.7ポイント、1泊2日が1.1ポイントの増加、4泊5日が2.3ポイント、5泊6日以上が0.9ポイントの減少など。秋季は日帰りが4.3ポイント、3泊4日が1.1ポイントの増加、1泊2日が4.5ポイント、5泊6日以上が0.5ポイントの減少などとなっている。

(図 3-4) 調査地別日帰り客・宿泊客割合(%) [R7 年]



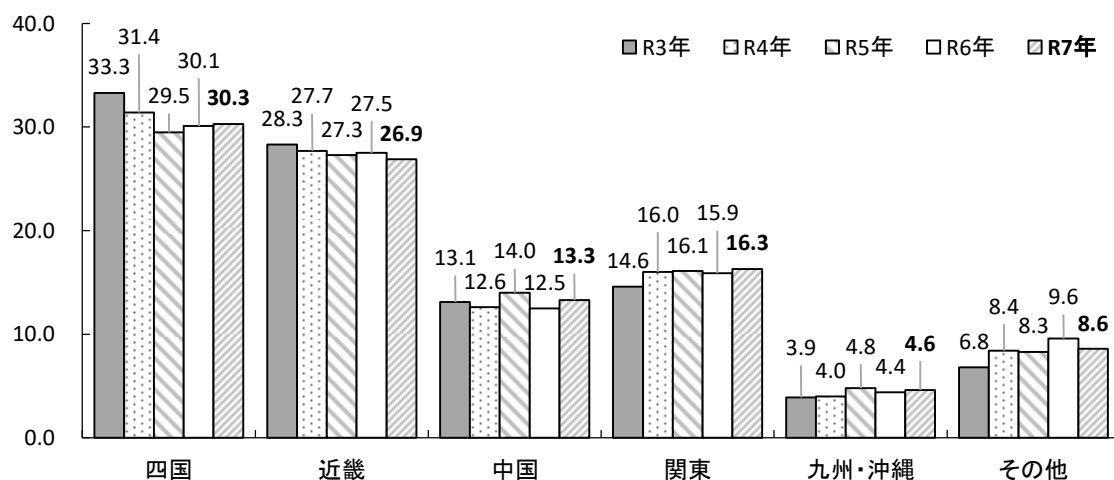
調査地別に日帰り客と宿泊客の割合をみると、日帰りの割合は黒潮本陣が 49.2%と最も多く、次いで室戸岬が 42.5%、土佐和紙工芸村が 40.6%と続いている。また、1泊2日は桂浜が 49.3%と最も多く、次いで高知城が 47.0%、モネの庭が 43.1%と続いている。そのほか、2泊3日は四万十川が 28.9%、3泊4日は足摺岬が 10.0%、4泊5日は黒潮本陣が 2.4%、5泊6日以上は高知城が 4.9%と、それぞれ最も多くなっている。

4 発地ブロック別入込割合

(表 4-1) 発地ブロック別入込割合 (上段：件 下段：%) [R3 年～R7 年]

	四国	近畿	中国	関東	九州・ 沖縄	その他
R3 年 (n=2,460)	818 33.3	697 28.3	323 13.1	359 14.6	97 3.9	166 6.8
R4 年 (n=2,993)	939 31.4	829 27.7	377 12.6	479 16.0	119 4.0	250 8.4
R5 年 (n=3,103)	914 29.5	847 27.3	436 14.0	500 16.1	149 4.8	257 8.3
R6 年 (n=3,049)	917 30.1	838 27.5	382 12.5	484 15.9	136 4.4	292 9.6
R7 年 (n=3,137)	950 30.3	843 26.9	417 13.3	510 16.3	146 4.6	271 8.6

(図 4-2) 発地ブロック別入込割合 (%) [R3 年～R7 年]



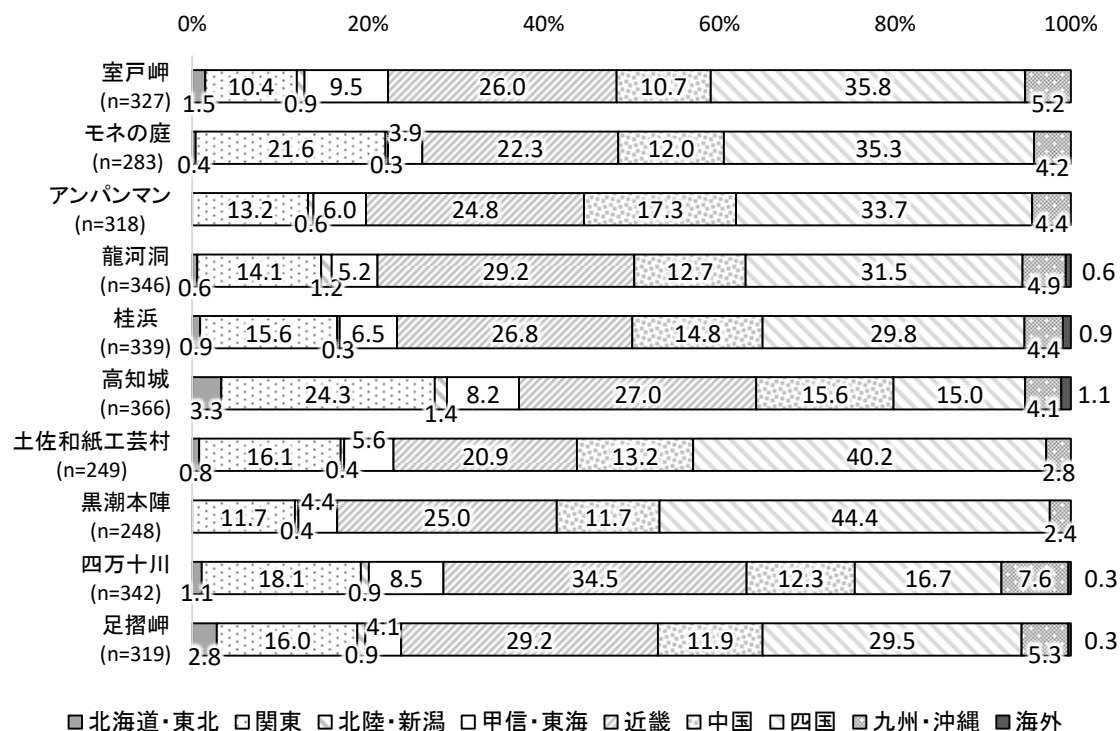
発地ブロック別入込割合をみると、四国が 30.3%と最も多く、次いで近畿が 26.9%、関東が 16.3%と続いている。

前年と比べると、中国が 0.8 ポイント、関東が 0.4 ポイント、四国と九州・沖縄が 0.2 ポイント増加などとなっており、その他のブロックが 1.0 ポイント、近畿が 0.6 ポイント減少などとなっている。令和 3 年度の調査から通してみると、関東の割合は最大、近畿は最小となっている。

(表 4-1 参考①) 発地ブロック別入込割合(上段:件 下段:%) [R3 年~R7 年 全地区データ]

	四国	近畿	中国	関東	九州・ 沖縄	甲信・ 東海	北陸・ 新潟	東北	北海道	海外
R3 年 (n=2,460)	818 33.3	697 28.3	323 13.1	359 14.6	97 3.9	123 5.0	16 0.7	13 0.5	14 0.6	0 0.0
R4 年 (n=2,993)	939 31.4	829 27.7	377 12.6	479 16.0	119 4.0	193 6.5	21 0.7	17 0.6	17 0.6	2 0.1
R5 年 (n=3,103)	914 29.5	847 27.3	436 14.0	500 16.1	149 4.8	182 5.9	29 0.9	21 0.7	23 0.7	2 0.1
R6 年 (n=3,049)	917 30.1	838 27.5	382 12.5	484 15.9	136 4.4	201 6.6	34 1.1	25 0.8	27 0.9	5 0.2
R7 年 (n=3,137)	950 30.3	843 26.9	417 13.3	510 16.3	146 4.6	198 6.3	24 0.8	19 0.6	19 0.6	11 0.3

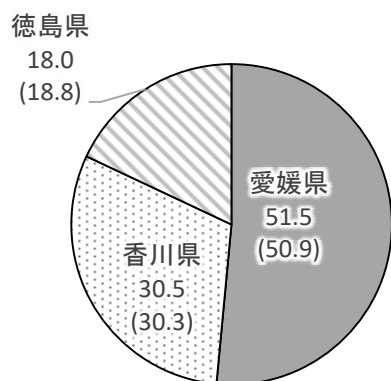
(表 4-1 参考②) 調査地別発地ブロック割合(%) [R7 年]



調査地別に発地ブロック入込割合をみると(表 4-1 参考②)、高知城と四万十川は近畿・関東、その他の8地点は四国・近畿の順で多くなっている。

四国・中国・近畿の近隣3ブロック合計で占める割合は、黒潮本陣が81.1%と最も多く、次いでアンパンマンミュージアムが75.8%、土佐和紙工芸村が74.3%と続いている。また、関東・近畿ブロックの合計は、四万十川が52.6%と最も多く、次いで高知城が51.3%、足摺岬が45.2%と続いている。

(図 4-3) ブロック別・四国 (%)

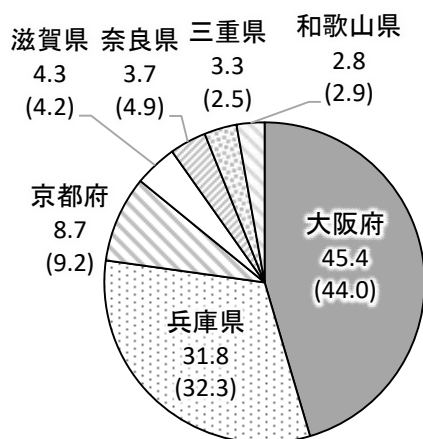


() 内の数値は R6 年

前年と比べ、愛媛が 0.6 ポイント、香川が 0.2 ポイント増加しており、徳島が 0.8 ポイント減少となっている。

愛媛は全体の入込割合で一位、また土佐和紙工芸村など 7 つの調査地において入込割合の一位となっている。香川は全体の三位、黒潮本陣など 3 地点で二位となっている。徳島は全体の七位、室戸岬で一位となっている (表 4-1 参考③)。

(図 4-4) ブロック別・近畿 (%)

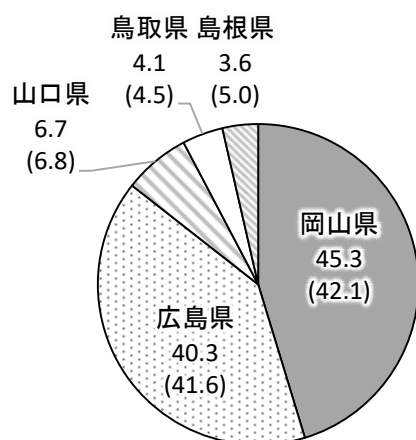


() 内の数値は R6 年

前年と比べ、大阪が 1.4 ポイント、三重が 0.8 ポイント、滋賀が 0.1 ポイント増加しており、奈良が 1.2 ポイント、兵庫と京都がともに 0.5 ポイント、和歌山が 0.1 ポイント減少となっている。大阪と兵庫で 77.2% を占めている。

大阪は全体の入込割合で二位、高知城と四万十川で一位となっており、兵庫は全体の四位、四万十川と足摺岬で二位となっている (表 4-1 参考③)。

(図 4-5) ブロック別・中国 (%)



() 内の数値は R6 年

前年と比べ、岡山が 3.2 ポイント増加しており、島根が 1.4 ポイント、広島が 1.3 ポイント、鳥取が 0.4 ポイント、山口が 0.1 ポイント減少となっている。岡山と広島の 2 県で 85.6% を占めている。

岡山は全体の入込割合で六位、広島は全体の八位となっている (表 4-1 参考③)。

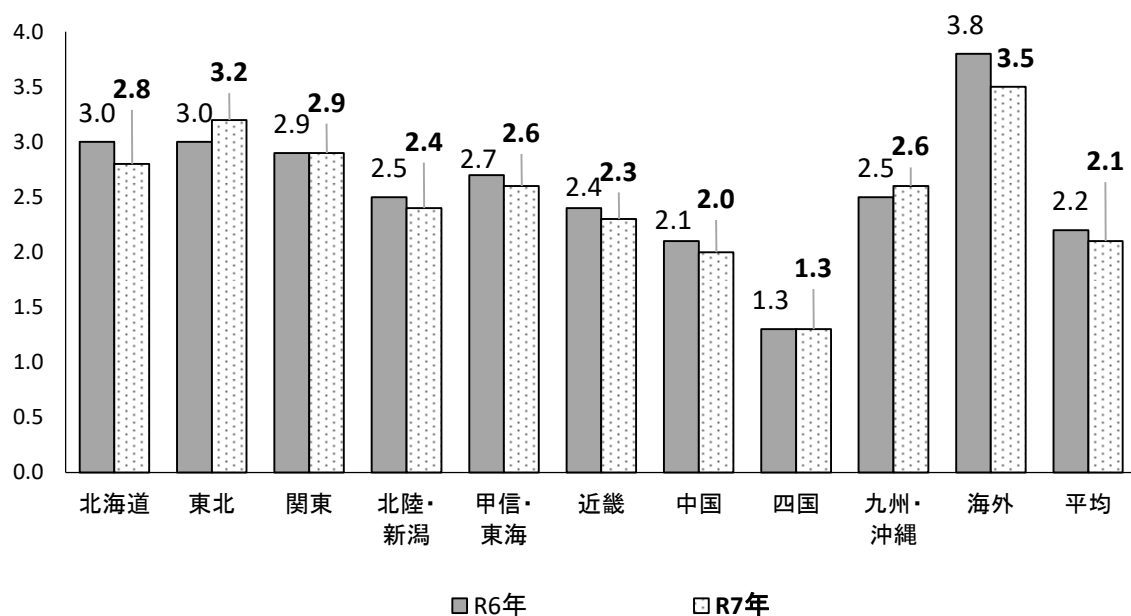
(表 4-1 参考③) 調査地別発地都道府県割合(件) [R7 年]

		室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙 工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬	全体	順位
県外合計		327	283	318	346	339	366	249	248	342	319	3,137	-
北海道・東北	北海道	1	0	0	1	1	7	2	0	3	4	19	
	青森県	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	4	
	岩手県	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	宮城県	1	0	0	0	2	3	0	0	0	3	9	
	秋田県	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	
	山形県	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	
	福島県	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	
北海道・東北 計		5	1	0	2	3	12	2	0	4	9	38	-
関東	茨城県	1	0	0	1	1	4	0	0	0	0	7	
	栃木県	0	0	0	0	0	5	0	1	1	1	8	
	群馬県	1	2	0	2	2	1	0	0	3	0	11	
	埼玉県	7	11	6	4	6	8	4	0	4	14	64	
	千葉県	2	6	3	6	9	10	3	4	4	9	56	
	東京都	11	27	20	22	22	38	23	17	35	15	230	5
	神奈川県	12	15	13	14	13	23	10	7	15	12	134	9
関東 計		34	61	42	49	53	89	40	29	62	51	510	-
北陸・新潟	新潟県	1	0	1	2	1	0	1	0	0	2	8	
	富山県	0	0	0	1	0	1	0	0	2	0	4	
	石川県	0	1	1	1	0	3	0	0	1	0	7	
	福井県	2	0	0	0	0	1	0	1	0	1	5	
北陸・新潟 計		3	1	2	4	1	5	1	1	3	3	24	-
甲信・東海	山梨県	2	0	1	0	0	0	0	0	3	1	7	
	長野県	2	1	1	2	2	0	0	0	3	4	15	
	岐阜県	5	1	1	2	4	4	2	1	3	1	24	
	静岡県	2	3	3	4	4	6	2	1	7	1	33	
	愛知県	20	6	13	10	12	20	10	9	13	6	119	10
甲信・東海 計		31	11	19	18	22	30	14	11	29	13	198	-
近畿	三重県	2	0	3	3	6	1	1	1	4	7	28	
	滋賀県	5	0	4	3	8	5	1	3	3	4	36	
	京都府	7	6	3	7	10	10	3	6	11	10	73	11
	大阪府	34	27	37	51	45	46	24	28	58	33	383	2
	兵庫県	29	27	28	33	17	28	17	19	35	35	268	4
	奈良県	4	2	1	2	3	5	2	3	5	4	31	
	和歌山県	4	1	3	2	2	4	4	2	2	0	24	
近畿 計		85	63	79	101	91	99	52	62	118	93	843	-
中国	鳥取県	0	2	1	6	2	2	1	1	1	1	17	
	島根県	1	0	1	3	4	1	1	0	2	2	15	
	岡山県	15	18	23	17	23	26	16	19	14	18	189	6
	広島県	15	13	27	14	15	27	13	9	20	15	168	8
	山口県	4	1	3	4	6	1	2	0	5	2	28	
中国 計		35	34	55	44	50	57	33	29	42	38	417	-
四国	徳島県	41	28	19	23	13	14	6	10	6	11	171	7
	香川県	38	29	30	30	36	18	21	42	18	28	290	3
	愛媛県	38	43	58	56	52	23	73	58	33	55	489	1
四国 計		117	100	107	109	101	55	100	110	57	94	950	-
九州・沖縄	福岡県	4	5	7	13	3	8	4	3	8	5	60	
	佐賀県	1	0	2	0	0	0	1	0	0	0	4	
	長崎県	1	0	2	0	0	1	1	1	1	2	9	
	熊本県	3	3	0	0	7	4	0	1	9	2	29	
	大分県	4	3	1	3	3	1	1	0	2	3	21	
	宮崎県	1	0	1	0	1	0	0	1	4	3	11	
	鹿児島県	2	0	0	1	1	1	0	0	1	1	7	
九州・沖縄 計		17	12	14	17	15	15	7	6	26	17	146	-
海外		0	0	0	2	3	4	0	0	1	1	11	-
高知県		73	117	82	54	61	34	151	152	58	81	863	-

5 旅行日数

5.1 発地ブロック別県内旅行日数

(図 5-1) 発地ブロック別県内旅行日数(日) [R6 年、R7 年]



県内旅行日数の平均は、前年と比べ、0.1日減少の2.1日となっている。

国内の発地ブロック別にみると、東北が3.2日で最も多く、次いで関東が2.9日、北海道が2.8日、甲信・東海と九州・沖縄が2.6日と続いている。前年と比べ、東北と九州・沖縄が増加しており、関東と四国は横ばい、北海道や近畿などの5ブロックは減少となっている。

5.2 年代別旅行日数

(表 5-2) 年代別県内旅行日数〔加重平均〕(日)〔R3 年～R7 年〕

	R3 年	R4 年	R5 年	R6 年	R7 年
10 代	2.1	2.6	2.3	2.2	2.3
20 代	2.2	2.2	2.2	2.3	2.2
30 代	2.2	2.3	2.1	2.2	2.1
40 代	2.1	2.1	2.1	2.2	2.1
50 代	2.0	2.1	2.0	2.1	2.1
60 代以上	2.0	2.2	2.1	2.1	2.1
全 体	2.1	2.1	2.1	2.2	2.1

年代別の県内旅行日数は、10 代が 2.3 日、20 代が 2.2 日、30 代以上の年代が 2.1 日となっている。

前年と比べ、10 代は 0.1 日増加、50 代と 60 代以上は横ばい、20 代から 40 代は 0.1 日減少となっている。

6 旅行形態別旅行目的割合

(表 6-1) 旅行形態別旅行目的割合(%) [R5 年～R7 年]

		自然 見物 ・町歩き	休養 ・慰安	イベント	アウト ドア	スポーツ	食べ物	神仏 霊場 巡り	買い物	名所 旧跡 観光 施設	なんと なく	ワーケー ション	帰省 ・仕事	その他
1 人	R5 年	22.1	2.3	2.3	3.9	0.7	11.7	6.2	0.9	14.7	17.0	-	17.0	1.2
	R6 年	24.0	1.0	2.7	3.8	-	9.0	9.2	1.3	12.0	18.7	-	16.2	2.1
	R7 年	28.2	0.9	2.7	3.2	0.7	9.5	9.9	0.7	17.4	9.5	-	15.1	2.2
家族	R5 年	22.0	3.7	2.2	2.6	0.2	19.7	3.7	2.2	27.8	3.7	-	11.1	1.1
	R6 年	23.0	3.0	1.5	3.0	0.3	21.4	5.3	3.1	22.5	3.4	-	12.2	1.3
	R7 年	26.6	2.8	0.9	2.3	0.8	22.3	5.0	1.4	26.2	1.9	-	8.5	1.3
友人 知人	R5 年	26.5	3.3	1.6	2.8	0.5	32.3	1.9	0.2	15.3	9.3	-	4.9	1.4
	R6 年	24.4	2.7	2.5	6.9	0.3	27.4	2.7	1.1	16.4	10.4	-	4.7	0.5
	R7 年	26.0	1.7	3.1	4.8	0.9	33.4	1.3	1.1	14.2	7.4	-	5.5	0.6
団体	R5 年	5.6	16.6	-	-	-	5.6	-	-	38.9	-	-	27.7	5.6
	R6 年	9.5	9.5	-	-	-	28.6	-	-	38.1	-	-	9.5	4.8
	R7 年	16.7	25.0	8.3	-	-	16.7	-	8.3	16.7	-	-	8.3	-
その他	R5 年	38.9	-	-	-	5.6	22.2	-	-	5.6	11.1	-	16.6	-
	R6 年	20.0	-	-	-	5.0	20.0	5.0	-	20.0	5.0	-	25.0	-
	R7 年	26.7	13.2	-	-	6.7	6.7	-	-	20.0	-	-	26.7	-
全体	R5 年	22.6	3.5	2.1	2.8	0.3	20.3	3.8	1.7	24.2	6.4	-	11.2	1.1
	R6 年	23.2	2.7	1.8	3.5	0.3	20.2	5.6	2.5	20.2	6.6	-	12.0	1.4
	R7 年	26.7	2.5	1.5	2.8	0.8	22.0	5.1	1.3	23.1	3.7	-	9.1	1.4

旅行目的の全体割合をみると、自然見物・町歩きが前年から3.5ポイント増加の26.7%で最も多く、次いで名所旧跡・観光施設が2.9ポイントの増加の23.1%、食べ物が1.8ポイント増加の22.0%、帰省・仕事が2.9ポイント減少の9.1%と続いている。

令和5年度の調査から通してみると、自然見物・町歩き、スポーツ、食べ物は最大、帰省・仕事やなんとなくなどの5項目は最小となっている。

旅行形態別に旅行目的を前年と比べると、一人旅では、名所旧跡・観光施設が5.4ポイント増加、なんとなくが9.2ポイント減少となっている。家族旅行では、名所旧跡・観光施設が3.7ポイント増加、帰省・仕事が3.7ポイント減少となり、友人・知人との旅行では、食べ物が6.0ポイント増加、なんとなくが3.0ポイント減少、団体では、休養・慰安が15.5ポイント増加、名所旧跡・観光施設が21.4ポイント減少となっている。

7 入込利用交通機関割合

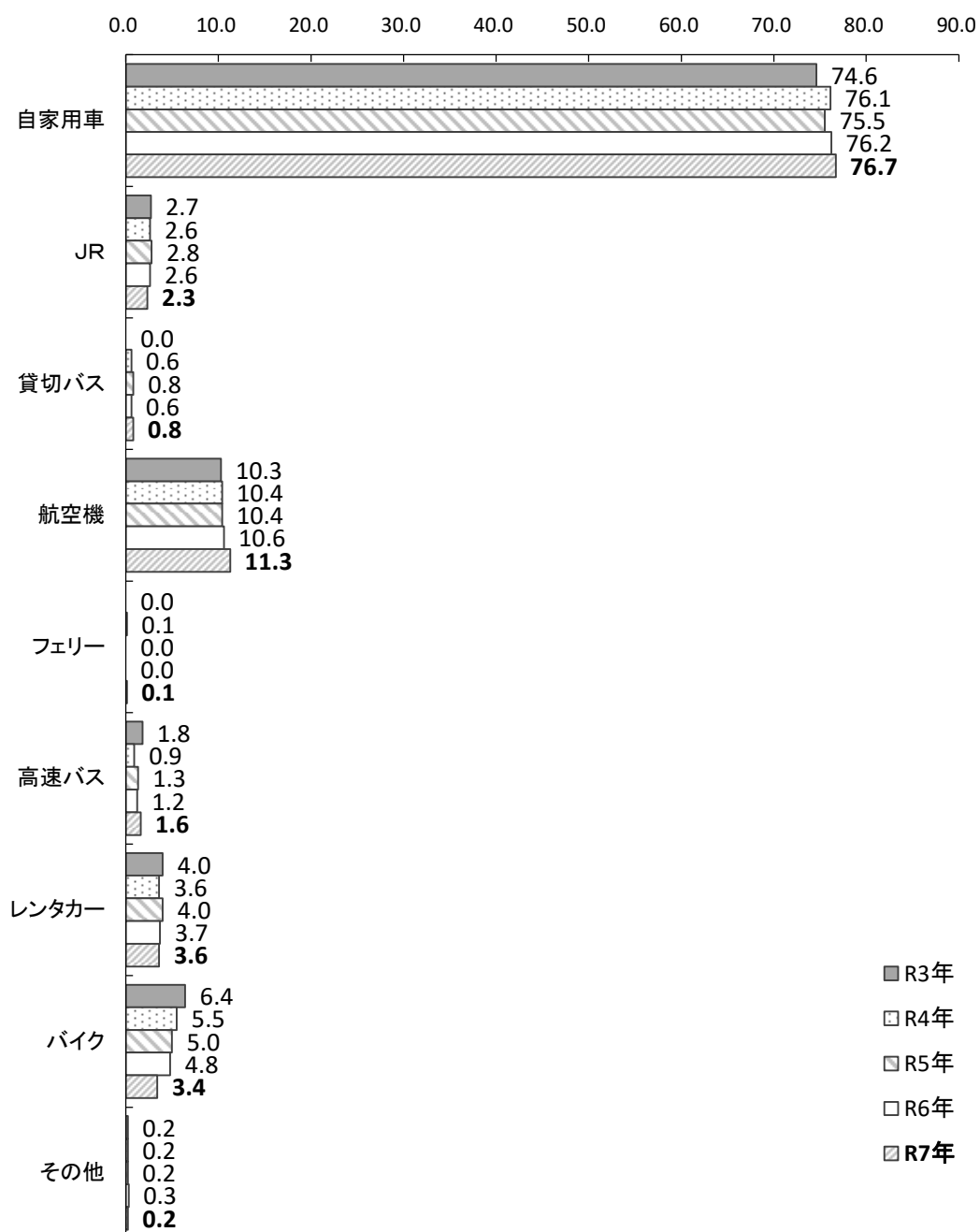
(表 7-1) 入込利用交通機関割合(上段:件 下段:%) [R3 年～R7 年]

	自家用車	J R	貸切バス	航空機	フェリー	高速バス	レンタカー	バイク	その他
R3 年	1,834	67	1	254	0	43	98	157	6
(n=2,460)	74.6	2.7	0.0	10.3	0.0	1.8	4.0	6.4	0.2
R4 年	2,277	78	19	312	2	27	109	164	5
(n=2,993)	76.1	2.6	0.6	10.4	0.1	0.9	3.6	5.5	0.2
R5 年	2,342	87	24	322	0	41	126	155	6
(n=3,103)	75.5	2.8	0.8	10.4	0.0	1.3	4.0	5.0	0.2
R6 年	2,324	80	18	322	1	35	112	147	10
(n=3,049)	76.2	2.6	0.6	10.6	0.0	1.2	3.7	4.8	0.3
R7 年	2,405	73	25	355	2	51	112	108	6
(n=3,137)	76.7	2.3	0.8	11.3	0.1	1.6	3.6	3.4	0.2

入込利用交通機関は、自家用車が前年から 0.5 ポイント増加の 76.7%で最も多く、次いで航空機が 0.7 ポイント増加の 11.3%、レンタカーが 0.1 ポイント減少の 3.6%、バイクが 1.4 ポイント減少の 3.4%と続いている。

令和 3 年度の調査から通してみると、自家用車と航空機の割合は最大、J R とバイクは最小となっている（同率を除く）。

(図 7-2) 入込利用交通機関別割合(%) [R3 年～R7 年]



8 旅行形態割合

(表 8-1) 年代別旅行形態割合(%) [R6 年、R7 年]

		1 人	家族	友人 知人	団体	その他
10 代	R6 年 (n=55)	14.5	78.2	7.3	0.0	0.0
	R7 年 (n=36)	13.9	77.8	8.3	0.0	0.0
20 代	R6 年 (n=365)	22.7	38.9	37.0	0.0	1.4
	R7 年 (n=311)	16.1	37.9	45.0	0.7	0.3
30 代	R6 年 (n=490)	15.5	65.7	18.0	0.6	0.2
	R7 年 (n=441)	10.9	66.4	22.5	0.2	0.0
40 代	R6 年 (n=644)	12.6	80.0	5.9	0.6	0.9
	R7 年 (n=647)	12.5	75.0	12.0	0.2	0.3
50 代	R6 年 (n=833)	15.6	76.1	6.8	1.1	0.4
	R7 年 (n=832)	16.2	73.8	9.6	0.0	0.4
60 代以上	R6 年 (n=662)	14.8	77.1	6.5	0.8	0.8
	R7 年 (n=870)	14.3	77.1	6.7	0.9	1.0
全 体	R6 年 (n=3,049)	15.6	71.1	12.0	0.7	0.6
	R7 年 (n=3,137)	14.1	70.4	14.6	0.4	0.5

旅行形態割合をみると、家族が 70.4% で最も多く、次いで友人知人が 14.6%、1 人が 14.1%、その他が 0.5%、団体が 0.4% と続いている。

前年と比べ、友人知人が 2.6 ポイント増加しており、1 人が 1.5 ポイント、家族が 0.7 ポイント、団体が 0.3 ポイント、その他が 0.1 ポイント減少となっている。

年代別に旅行形態をみると、20 代は友人知人が、20 代以外は家族が最も多くなっている。

(表 8-2) 年代別同行者数割合(%) [R6 年、R7 年]

		1 人	2～ 3 人	4～ 5 人	6～ 10 人	11 人 以上
10 代	R6 年 (n=55)	14.5	50.9	29.1	5.5	0.0
	R7 年 (n=36)	13.9	38.9	41.7	5.5	0.0
20 代	R6 年 (n=365)	22.7	64.9	11.3	0.8	0.3
	R7 年 (n=311)	16.1	66.6	14.5	1.9	0.9
30 代	R6 年 (n=490)	15.5	55.1	24.7	4.5	0.2
	R7 年 (n=441)	10.9	61.9	23.1	3.6	0.5
40 代	R6 年 (n=644)	12.6	60.2	23.0	3.6	0.6
	R7 年 (n=647)	12.5	56.7	25.2	5.3	0.3
50 代	R6 年 (n=833)	15.6	69.2	12.5	2.0	0.7
	R7 年 (n=832)	16.2	68.5	12.3	2.6	0.4
60 代以上	R6 年 (n=662)	14.8	72.0	8.5	3.6	1.1
	R7 年 (n=870)	14.3	71.8	10.0	2.8	1.1
全 体	R6 年 (n=3,049)	15.6	64.8	16.0	3.0	0.6
	R7 年 (n=3,137)	14.1	65.5	16.4	3.3	0.7

同行者数割合をみると、2～3 人が 65.5% で最も多く、次いで 4～5 人が 16.4%、1 人が 14.1%、6～10 人が 3.3%、11 人以上が 0.7% と続いている。

前年と比べ、2～3 人が 0.7 ポイント、4～5 人が 0.4 ポイント、6～10 人が 0.3 ポイント、11 人以上が 0.1 ポイント増加しており、1 人が 1.5 ポイント減少となっている。

年代別にみると、10 代は 4～5 人が、それ以外の年代は 2～3 人が最も多くなっている。

(表 8-3) 年代別旅行形態・同行者数(件) [R7 年]

		10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代 以上
1 人		5	50	48	81	135	124
家 族	2～3 人	11	84	186	302	510	586
	4～5 人	15	28	92	155	88	71
	6～10 人	2	5	14	27	16	14
	11 人以上		1	1	1		
友 人 知 人	2～3 人	3	122	87	65	59	38
	4～5 人		17	10	8	13	14
	6～10 人		1	2	5	5	6
	11 人以上					3	
団 体	2～3 人		1				
	4～5 人						
	6～10 人						2
	11 人以上		1	1	1		6
そ の 他	2～3 人					1	1
	4～5 人					1	2
	6～10 人				2	1	2
	11 人以上		1				4

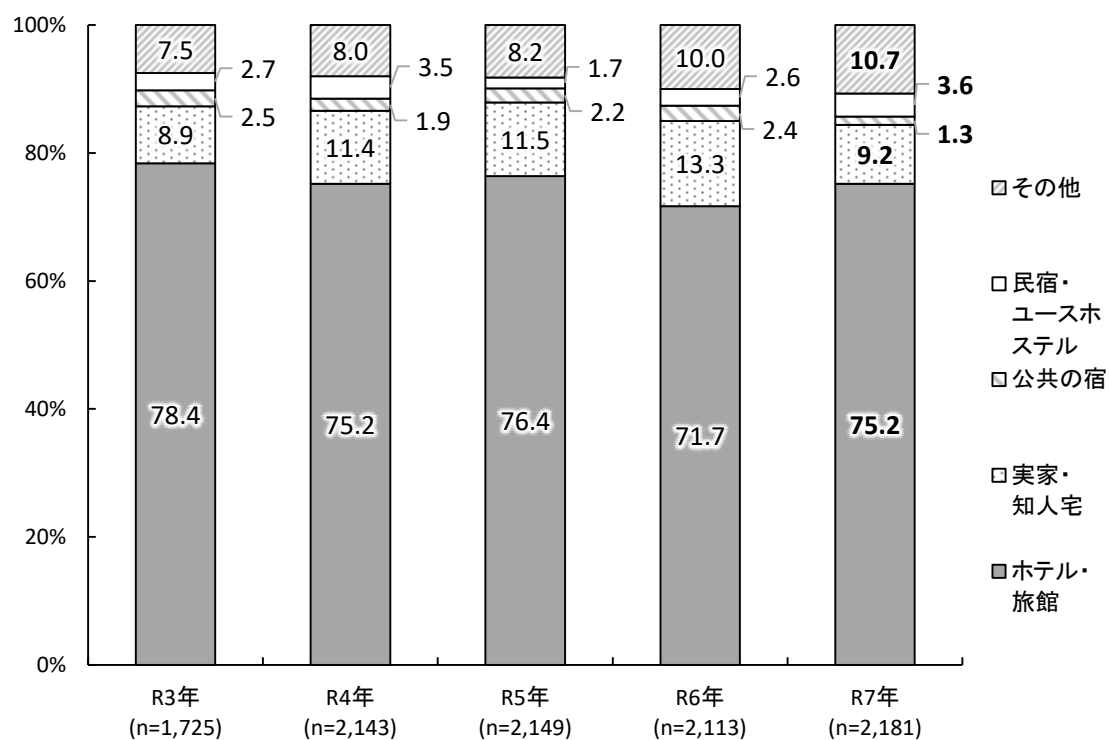
※背景色＋太字は年代での最多。

年代別に旅行形態と同行者数の関係をみると、10 代は「4～5 人の家族」、20 代は「2～3 人の友人知人」、30 代以上の年代は「2～3 人の家族」が最も多くなっている。

9 宿泊施設割合

9.1 年間

(図 9-1) 県内利用宿泊施設割合(%) [R3 年～R7 年]



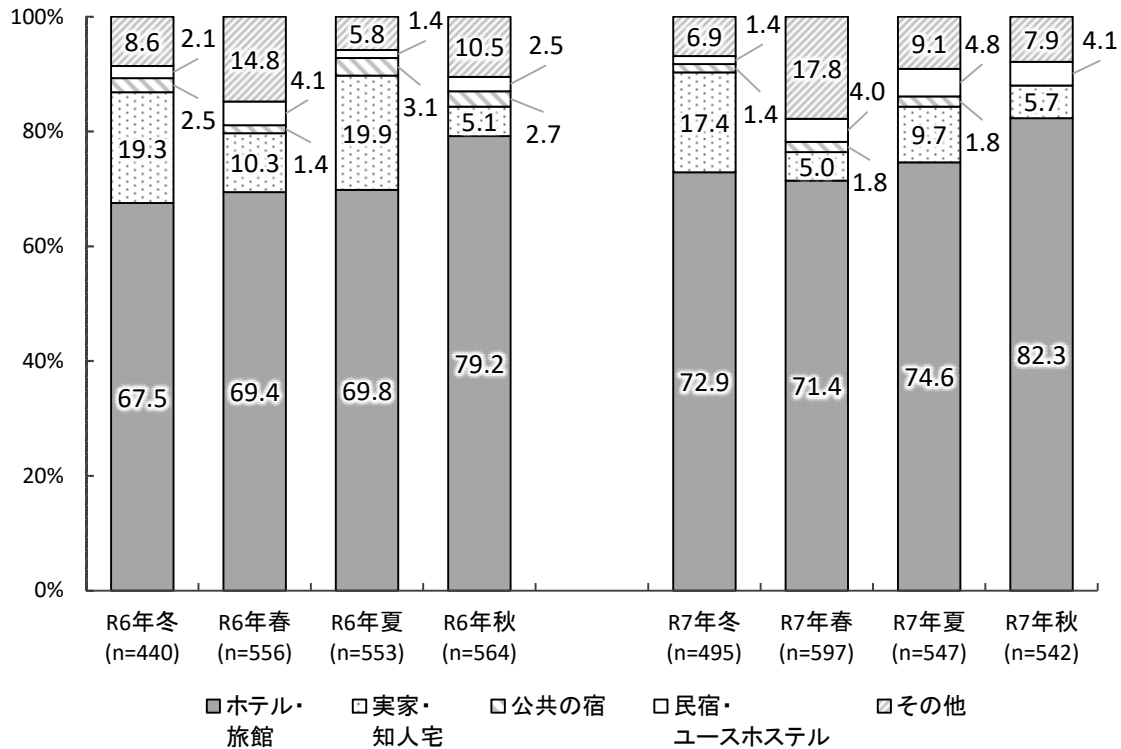
県内で利用された宿泊施設の割合は、ホテル・旅館が 75.2% で最も多く、次いでその他が 10.7%、実家・知人宅が 9.2%、民宿・ユースホステルが 3.6%、公共の宿が 1.3% と続いている。

前年と比べ、ホテル・旅館が 3.5 ポイント、民宿・ユースホステルが 1.0 ポイント、その他が 0.7 ポイント増加し、実家・知人宅が 4.1 ポイント、公共の宿が 1.1 ポイント減少している。

令和 3 年度の調査から通してみると、民宿・ユースホステルとその他の割合は最大、公共の宿は最小となっている。

9.2 四季別

(図 9-2) 四季別県内利用宿泊施設割合(%) [R6 年、R7 年]



四季別に県内利用宿泊施設の割合をみると、ホテル・旅館の占める割合が年間を通じて最も多くなっている。

前年と比べると、すべての調査時期でホテル・旅館の割合が増加となっている。冬季はホテル・旅館が5.4ポイント増加した一方で、実家・知人宅が1.9ポイント、その他が1.7ポイント減少など。春季はそのほか3.0ポイント、ホテル・旅館が2.0ポイント増加した一方で、実家・知人宅が5.3ポイント減少など。夏季はホテル・旅館が4.8ポイント、民宿・ユースホステルが3.4ポイント、その他が3.3ポイント増加した一方で、実家・知人宅が10.2ポイント減少など。秋季はホテル・旅館が3.1ポイント、民宿・ユースホステルが1.6ポイント増加した一方で、公共の宿が2.7ポイント、その他が2.6ポイント減少などとなっている。

9.3 年代別宿泊施設割合

(表 9-3) 年代別県内利用宿泊施設割合(%) [R6 年、R7 年]

		ホテル・ 旅館	実家・ 知人宅	公共の宿	民宿・ ユース ホステル	その他
10 代	R6 年 (n=41)	68.3	21.9	-	-	9.8
	R7 年 (n=24)	58.4	25.0	-	8.3	8.3
20 代	R6 年 (n=286)	72.0	15.7	0.7	3.2	8.4
	R7 年 (n=246)	79.3	8.1	1.2	3.7	7.7
30 代	R6 年 (n=320)	69.1	19.1	1.8	2.5	7.5
	R7 年 (n=293)	74.1	14.0	0.7	3.4	7.8
40 代	R6 年 (n=429)	68.8	16.5	2.1	2.1	10.5
	R7 年 (n=464)	75.2	9.1	0.7	4.7	10.3
50 代	R6 年 (n=584)	75.0	11.3	2.6	1.7	9.4
	R7 年 (n=568)	75.4	8.4	1.1	3.0	12.1
60 代以上	R6 年 (n=453)	72.4	6.4	4.2	4.0	13.0
	R7 年 (n=586)	74.7	7.4	2.4	3.2	12.3

年代別に県内利用宿泊施設割合をみると、すべての年代でホテル・旅館が最も多くなっている。

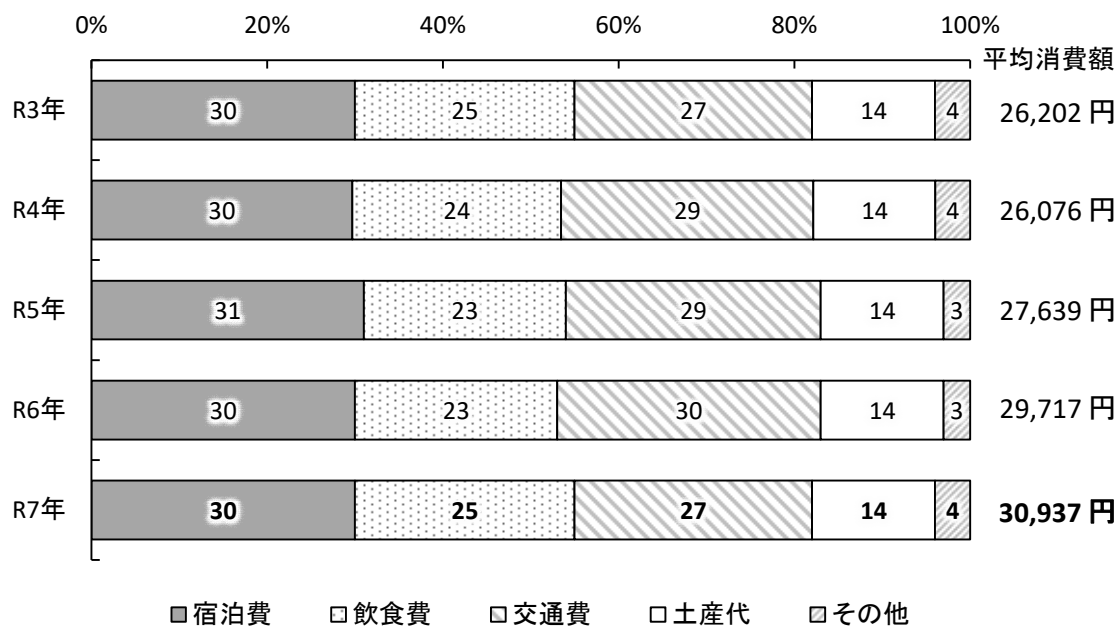
前年と比べ変動幅が大きい項目を年代別にみると、10代は民宿・ユースホステルの増加、ホテル・旅館の減少など。20代から40代はホテル・旅館の増加、実家・知人宅の減少など。50代はその他の増加、実家・知人宅の減少など。60代以上はホテル・旅館の増加、公共の宿の減少などとなっている。

10 県内消費額

10.1 県内消費額費目別割合・平均消費額

10.1.1 年間

(図 10-1) 県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [R3 年～R7 年]



県内消費額の平均額は、前年と比べ 1,220 円増加の 30,937 円となっている。費目別で見ると、宿泊費が 30%と最も多く、次いで交通費が 27%、飲食費が 25%、土産代が 14%、その他が 4%と続いている。

(図 10-1 参考①) 県内平均消費額費目別内訳(円) [R5 年～R7 年]

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	合計
R5 年	8,497	6,340	7,890	3,982	930	27,639
R6 年	8,987	6,763	8,738	4,219	1,010	29,717
R7 年	9,505	7,669	8,385	4,233	1,145	30,937

費目別の平均消費額を前年と比べると、飲食費が 906 円、宿泊費が 518 円、その他が 135 円、土産代が 14 円増加、交通費が 353 円減少となっている。

令和 5 年度の調査から通してみると、交通費以外で最大となっている。

(図 10-1 参考②) 調査地別県内平均消費額(円) [R6 年、R7 年]

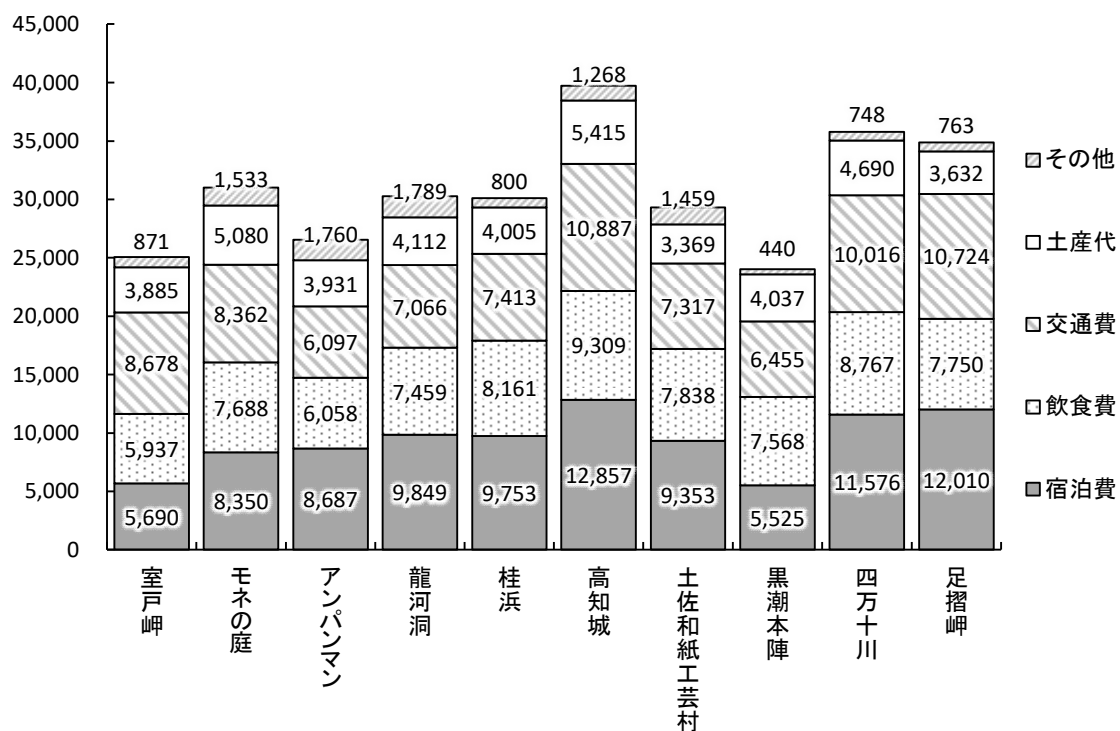
	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜
R6 年	27,605	31,126	23,149	29,236	28,924
R7 年	25,061	31,013	26,533	30,275	30,132
前年との差	▲ 2,544	▲ 113	3,384	1,039	1,208

	高知城	土佐和紙 工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬
R6 年	33,980	31,944	21,442	36,175	31,284
R7 年	39,736	29,336	24,025	35,797	34,879
前年との差	5,756	▲ 2,608	2,583	▲ 378	3,595

調査地別の年間平均消費額をみると、高知城が 39,736 円で最も高く、次いで、四万十川が 35,797 円、足摺岬が 34,879 円と続いており、黒潮本陣が 24,025 円で最も低くなっている。

前年と比べ、高知城が 5,756 円、足摺岬が 3,595 円の増加などとなっている一方で、土佐和紙工芸村が 2,608 円、室戸岬が 2,544 円の減少などとなっている。

(図 10-1 参考③) 調査地別県内平均消費額費目別内訳(円) [R7 年]



調査地別に費目別の平均消費額をみると、黒潮本陣では飲食費が、室戸岬とモネの庭では交通費が、それ以外の調査地では宿泊費が最も多くなっている。

(参考) 県外観光客1人当たりの県内消費額及び経済波及効果

	R7		R6		R5		R4	
	R7-R6 (対R6増減率)		R6-R5 (対R5増減率)		R5-R4 (対R4増減率)		R4-R3 (対R3増減率)	
県外観光客総数(人)	4,572,048	118,429	2.7%	4,453,619	▲ 268,398	▲ 5.7%	3,707,314	1,035,190
	客船 (乗船客数)	(客船以外)		客船 (乗船客数)	(客船以外)		客船 (乗船客数)	(客船以外)
	客船以外 A 4,422,731	客船以外 B 43,712	1.0%	客船以外 A 4,379,019	客船以外 B 74,600	5.7%	客船以外 A 3,704,717	客船以外 B 1,034,062
県外観光客一人当たり消費額 (円)	30,937	1,220	4.1%	29,717	2,078	7.5%	26,076	▲ 126
＜内訳＞ 宿泊費	9,505	518	5.8%	8,987	490	5.8%	7,780	▲ 216
飲食費	7,669	906	13.4%	6,763	423	6.7%	6,176	▲ 289
交通費	8,385	▲ 353	▲ 4.0%	8,738	848	10.7%	7,478	344
土 産	4,233	14	0.3%	4,219	237	6.0%	3,731	45
その他	1,145	135	13.4%	1,010	80	8.6%	911	▲ 10
県外観光客の総消費額(百万 円)	客船除く総消費額 A × B 136,826	客船除く総消費額 A × B 6,694	5.1%	客船除く総消費額 A × B 130,131	客船除く総消費額 A × B 1,729	1.3%	客船除く総消費額 A × B 96,604	26,627
	客船乗船客等による消費額 1,309	客船乗船客等による消費額 624	91.1%	客船乗船客等による消費額 685	客船乗船客等による消費額 12	1.8%	客船乗船客等による消費額 30	14
	138,135	7,318	5.6%	130,816	1,741	1.3%	96,634	26,641
客船除く生産誘発効果(百万円)	204,336			194,203			144,088	
客船の生産誘発効果(百万円)	1,474			798			39	
生産誘発効果(百万円)	205,810			195,001			144,127	
生産誘発倍率(倍)	1.49			1.49			1.49	

10.1.2 四季別

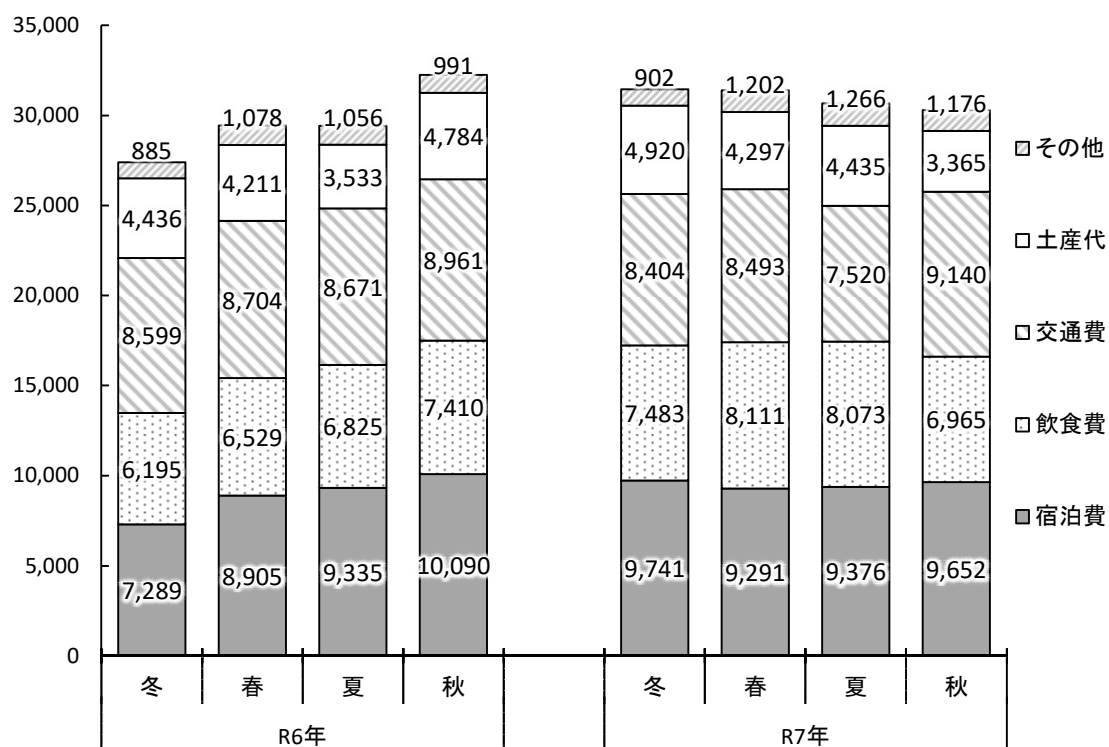
(表 10-2) 四季別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [R6 年、R7 年]

		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均消費額	前年差
冬	R6 年	27	23	31	16	3	27,404 円	4,046 円
	R7 年	31	24	27	15	3	31,450 円	
春	R6 年	30	22	30	14	4	29,427 円	1,967 円
	R7 年	29	26	27	14	4	31,394 円	
夏	R6 年	32	23	30	12	4	29,420 円	1,250 円
	R7 年	31	26	25	14	4	30,670 円	
秋	R6 年	31	23	28	15	3	32,236 円	▲ 1,938 円
	R7 年	32	23	30	11	4	30,298 円	

四季別の平均消費額を前年と比べると、冬季が 4,046 円、春季が 1,967 円、夏季が 1,250 円の増加、秋季が 1,938 円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、宿泊費は冬季と秋季で増加、春季と夏季で減少。飲食費は冬季から夏季で増加、秋季は横ばい。交通費は秋季で増加、冬季から夏季で減少。土産代は夏季で増加、春季は横ばい、冬季と秋季で減少。その他は秋季で増加、冬季から夏季は横ばいとなっている。

(図 10-3) 四季別県内平均消費額費目別内訳(円) [R6 年、R7 年]



各費目について最も高くなった時季と平均消費額は、宿泊費が冬季の 9,741 円、飲食費が春季の 8,111 円、交通費が秋季の 9,140 円、土産代が冬季の 4,920 円、その他が夏季の 1,266 円となっている。

前年と比べ、平均消費額が増加した費目を時季別にみると、冬季から夏季は交通費以外、秋季は交通費とその他となっている。

10.2 年代別費目割合・平均消費額

(表 10-4) 年代別県内消費額費目別割合(%)、同平均消費額(円) [R6 年、R7 年]

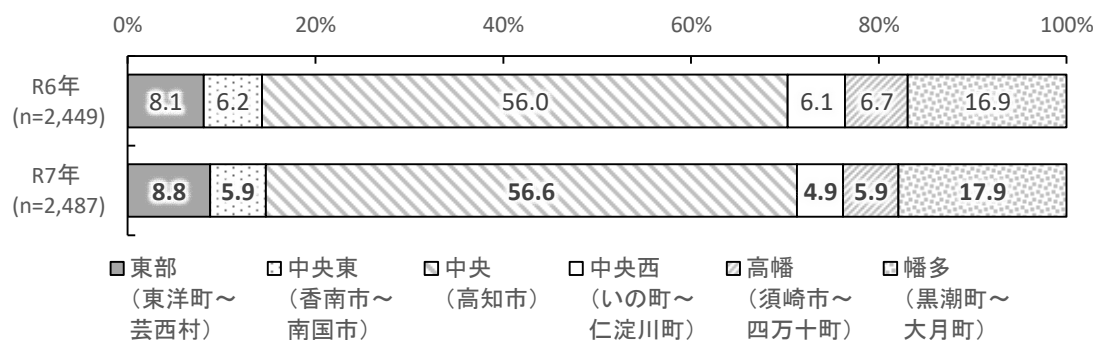
		宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	平均金額	前年差
10 代	R6 年	27	22	33	13	5	24,363 円	▲ 671 円
	R7 年	27	25	30	13	5	23,692 円	
20 代	R6 年	27	23	35	12	3	32,879 円	994 円
	R7 年	31	24	31	11	3	33,873 円	
30 代	R6 年	27	23	32	14	4	26,719 円	3,048 円
	R7 年	29	26	28	13	4	29,767 円	
40 代	R6 年	30	24	28	14	4	27,629 円	2,528 円
	R7 年	31	27	24	14	4	30,157 円	
50 代	R6 年	31	23	28	15	3	30,137 円	932 円
	R7 年	31	24	27	14	4	31,069 円	
60 代 以上	R6 年	33	22	27	15	3	32,130 円	▲ 859 円
	R7 年	30	23	28	15	4	31,271 円	

年代別の平均消費額は、前年と比べると、30 代が 3,048 円、40 代が 2,528 円、20 代が 994 円、50 代が 932 円の増加、60 代以上が 859 円、10 代が 671 円の減少となっている。

費目別の割合を前年と比べると、宿泊費は 20 代、30 代、40 代で増加、60 代以上で減少。飲食費はすべての年代で増加。交通費は 60 代以上で増加、10 代から 50 代で減少。土産代は 20 代、30 代、50 代で減少。その他は 50 代と 60 代以上で増加となっている。

11 宿泊地域割合

(図 11-1) 県内宿泊地域割合(%) [R6 年、R7 年]



県内での宿泊地域をみると、中央が 56.6% で最も高く、次いで幡多が 17.9%、東部が 8.8%、高幡と中央東が 5.9%、中央西が 4.9% と続いている。

前年と比べ、幡多が 1.0 ポイント、東部が 0.7 ポイント、中央が 0.6 ポイントの増加、中央西が 1.2 ポイント、高幡が 0.8 ポイント、中央東が 0.3 ポイントの減少となっている。

(表 11-2) 調査地別県内宿泊地域割合(%) [R7 年]

	東部	中央東	中央	中央西	高幡	幡多
室戸岬	25.9	9.1	44.0	4.7	6.0	10.3
モネの庭	24.7	4.9	61.4	2.5	3.5	3.0
アンパンマン	10.3	10.8	66.2	2.0	2.9	7.8
龍河洞	5.0	12.4	65.2	5.0	5.0	7.4
桂浜	5.3	4.6	76.4	4.6	3.4	5.7
高知城	5.8	5.5	77.2	3.6	1.8	6.1
土佐和紙工芸村	4.6	5.8	62.6	14.9	3.5	8.6
黒潮本陣	-	3.5	43.3	7.7	24.5	21.0
四万十川	1.7	2.0	38.9	4.6	7.7	45.1
足摺岬	8.1	2.7	35.5	3.6	6.9	43.2
全体	8.8	5.9	56.6	4.9	5.9	17.9

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊地域をみると、桂浜と高知城は中央、幡多の順で、四万十川と足摺岬は幡多、中央の順で、その他の調査地は中央、調査地がある地域の順で、それぞれ多くなっている。

(表 11-3)調査地別県内利用宿泊施設割合(%) [R7 年]

	ホテル・旅館	実家・知人宅	公共の宿	民宿・・ ユースホステル	その他
室戸岬	61.7	8.2	1.0	5.6	23.5
モネの庭	81.1	5.4	5.4	2.2	5.9
アンパンマン	90.0	5.3	-	1.0	3.7
龍河洞	72.8	14.7	0.4	2.9	9.2
桂浜	83.5	9.3	0.8	2.0	4.4
高知城	84.1	10.2	0.7	0.7	4.3
土佐和紙工芸村	81.5	3.8	2.6	1.9	10.2
黒潮本陣	53.4	21.8	5.3	4.5	15.0
四万十川	66.8	11.3	-	5.3	16.6
足摺岬	70.9	3.2	-	9.7	16.2
全体	75.2	9.2	1.3	3.6	10.7

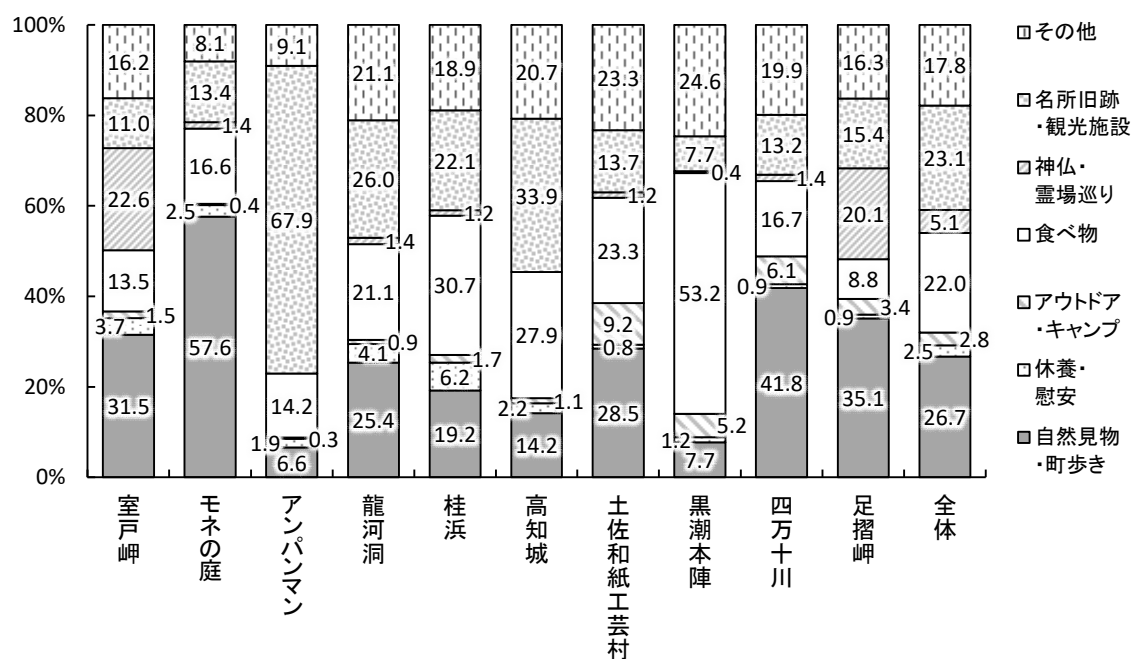
※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

調査地別に宿泊施設をみると、室戸岬、モネの庭、土佐和紙工芸村、四万十川、足摺岬はホテル・旅館、その他の順で、その他の調査地はホテル・旅館、実家・知人宅の順で、それぞれ多くなっている。

12 調査地別割合

12.1 旅行目的割合

(図 12-1) 調査地別旅行目的割合(%) [R7 年]



(表 12-2) 調査地別旅行目的割合(%) [R7 年]

	自然見物 ・町歩き	休養・ 慰安	アウトドア ・キャンプ	食べ物	神仏・ 霊場巡り	名所旧跡 ・観光施設	その他
室戸岬	31.5	3.7	1.5	13.5	22.6	11.0	16.2
モネの庭	57.6	2.5	0.4	16.6	1.4	13.4	8.1
アンパンマン	6.6	1.9	0.3	14.2	-	67.9	9.1
龍河洞	25.4	4.1	0.9	21.1	1.4	26.0	21.1
桂浜	19.2	6.2	1.7	30.7	1.2	22.1	18.9
高知城	14.2	2.2	1.1	27.9	-	33.9	20.7
土佐和紙工芸村	28.5	0.8	9.2	23.3	1.2	13.7	23.3
黒潮本陣	7.7	1.2	5.2	53.2	0.4	7.7	24.6
四万十川	41.8	0.9	6.1	16.7	1.4	13.2	19.9
足摺岬	35.1	0.9	3.4	8.8	20.1	15.4	16.3
全体	26.7	2.5	2.8	22.0	5.1	23.1	17.8

※背景色＋太字は調査地ごとの上位2位まで。

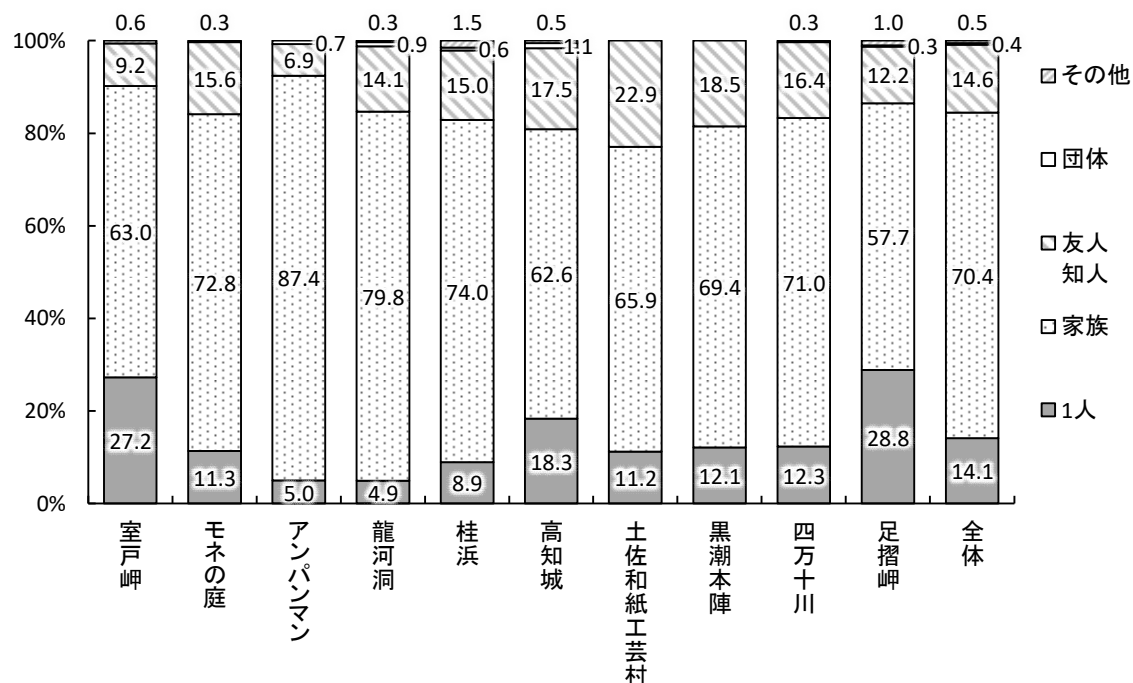
調査地別に上位2位を占めた旅行目的をみると、室戸岬と足摺岬は自然見物・町歩きと神仏・霊場巡り、モネの庭は自然見物・町歩きと食べ物、アンパンマンミュージアム・桂浜・高知城は食べ物と名所旧跡・観光施設、龍河洞は自然見物・町歩きと名所旧跡・観光施設、土佐和紙工芸村は自然見物・町歩きと同率の食べ物とその他※1、黒潮本陣は食べ物とその他※2、四万十川は自然見物・町歩きとその他※2となっている。

※1 その他の内訳で最多は、なんとなく（ドライブを含む） ※2 その他の内訳で最多は、帰省・知人訪問

旅行目的別に割合が最も多くなった調査地をみると、自然見物・町歩きは57.6%でモネの庭、休養・慰安は6.2%で桂浜、アウトドア・キャンプは9.2%で土佐和紙工芸村、食べ物は53.2%で黒潮本陣、神仏・霊場巡りは22.6%で室戸岬、名所旧跡・観光施設は67.9%でアンパンマンミュージアムとなっている。

12.2 旅行形態割合

(図 12-3) 調査地別旅行形態割合(%) [R7 年]

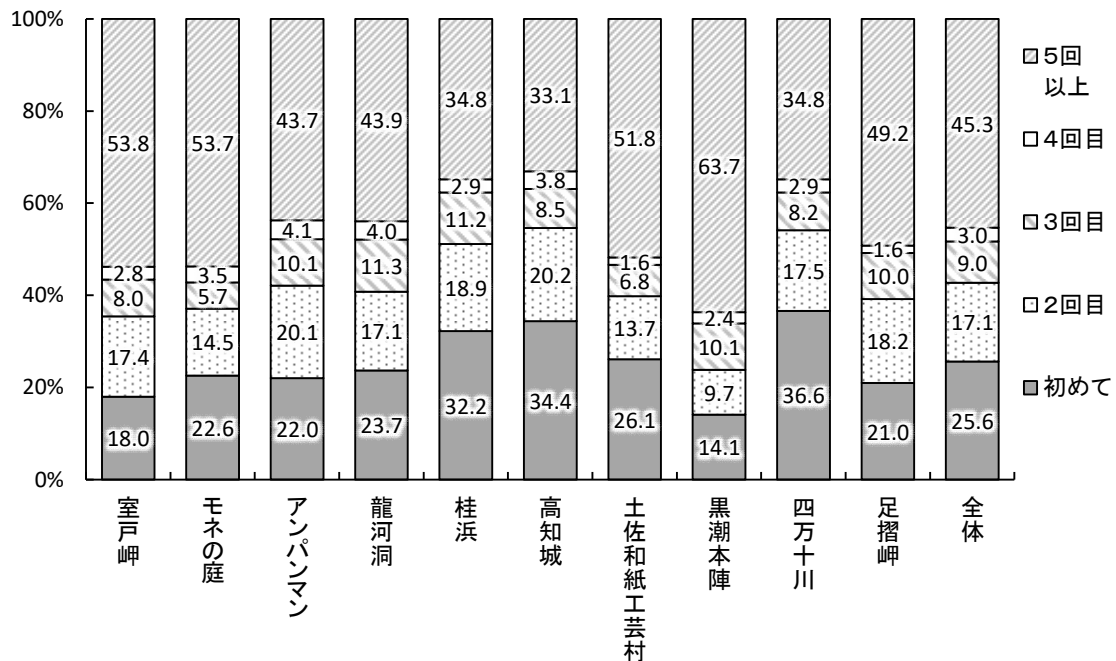


調査地別の旅行形態割合をみると、すべての調査地で家族が最も多く、次いで、室戸岬、高知城、足摺岬は1人が、その他の調査地は友人知人が、それぞれ多くなっている。

旅行形態別に割合が最も多くなった調査地をみると、1人は28.8%で足摺岬、家族は87.4%でアンパンマンミュージアム、友人知人は22.9%で土佐和紙工芸村、団体は1.1%で高知城、その他は1.5%で桂浜となっている。

12.3 過去来県回数割合

(図 12-4) 調査地別過去来県回数割合(%) [R7 年]



(表 12-5) 過去来県回数割合(%) [R4 年～R7 年]

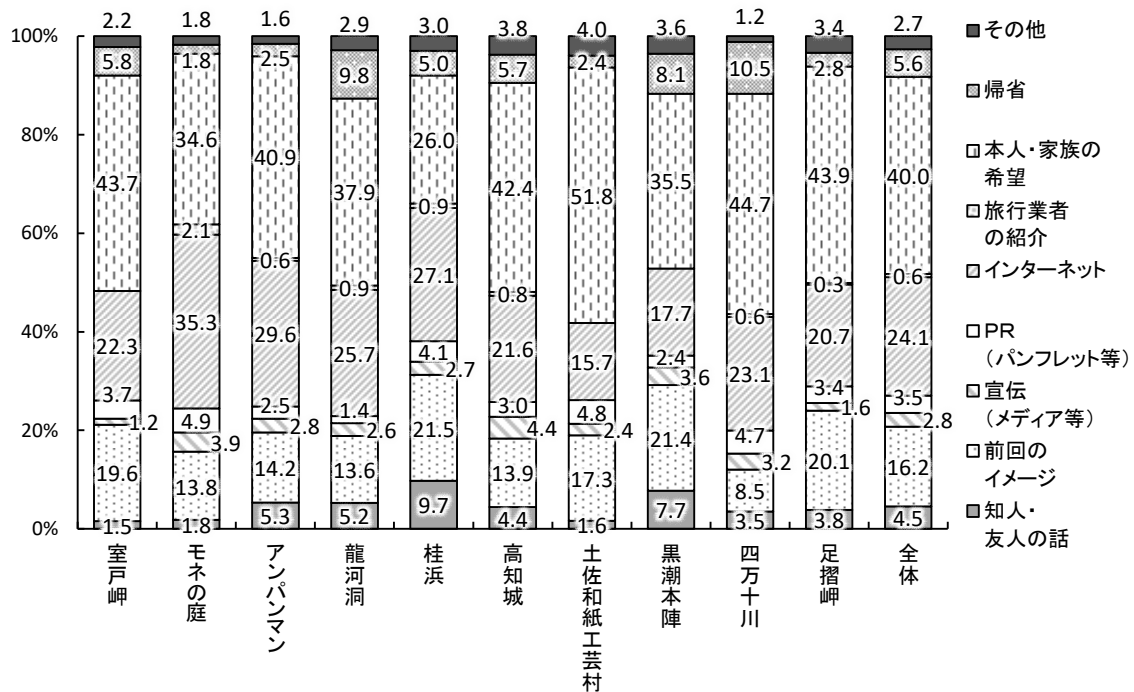
	初めて	2回目	3回目	4回目	5回以上
R4 年	25.9	14.7	9.4	4.0	46.0
R5 年	25.1	15.7	10.0	3.7	45.5
R6 年	26.0	15.6	10.9	2.9	44.6
R7 年	25.6	17.1	9.0	3.0	45.3

全体の過去来県回数は、5回以上が45.3%と最も多く、次いで初めてが25.6%、2回目が17.1%、3回目が9.0%、4回目が3.0%と続いている。

来県回数別に割合が最も多くなった調査地をみると、初めては36.6%で四万十川、2回目は20.2%で高知城、3回目は11.3%で龍河洞、4回目は4.1%でアンパンマンミュージアム、5回以上は63.7%で黒潮本陣となっている。

12.4 動機割合

(図 12-6) 調査地別動機割合(%) [R7 年]



(表 12-7) 調査地別動機割合(%) [R7 年]

	知人・友人の話	前回のイメージ	宣伝(メディア等)	PR(パンフレット等)	インターネット	旅行業者の紹介	本人・家族の希望	帰省	その他
室戸岬	1.5	19.6	1.2	3.7	22.3	-	43.7	5.8	2.2
モネの庭	1.8	13.8	3.9	4.9	35.3	2.1	34.6	1.8	1.8
アンパンマン	5.3	14.2	2.8	2.5	29.6	0.6	40.9	2.5	1.6
龍河洞	5.2	13.6	2.6	1.4	25.7	0.9	37.9	9.8	2.9
桂浜	9.7	21.5	2.7	4.1	27.1	0.9	26.0	5.0	3.0
高知城	4.4	13.9	4.4	3.0	21.6	0.8	42.4	5.7	3.8
土佐和紙工芸村	1.6	17.3	2.4	4.8	15.7	-	51.8	2.4	4.0
黒潮本陣	7.7	21.4	3.6	2.4	17.7	-	35.5	8.1	3.6
四万十川	3.5	8.5	3.2	4.7	23.1	0.6	44.7	10.5	1.2
足摺岬	3.8	20.1	1.6	3.4	20.7	0.3	43.9	2.8	3.4
全体	4.5	16.2	2.8	3.5	24.1	0.6	40.0	5.6	2.7

※背景色＋太字は動機ごとの上位2位まで。

全体の動機割合をみると、本人・家族の希望が40.0%と最も多く、次いでインターネットが24.1%、前回のイメージが16.2%、帰省が5.6%と続いている。

動機別に割合が最も多くなった調査地をみると、知人・友人の話は9.7%で桂浜、前回のイメージは21.5%で桂浜、宣伝（メディア等）は4.4%で高知城、PR（パンフレット等）は4.9%でモネの庭、インターネットは35.3%でモネの庭、旅行業者の紹介は2.1%でモネの庭、本人・家族の希望は51.8%で土佐和紙工芸村、帰省は10.5%で四万十川となっている。

13 ＜参考＞委託事業者の所見

NHK連続テレビ小説『あんぱん』放送開始と同時に幕を開けた令和7年度は、地域資源を活用した滞在型観光を推し進める「どっぷり高知旅キャンペーン」が2年目を迎え、観光商品の造成や受け入れ態勢の強化が引き続き取り組まれる中、『あんぱん』放送と連動する形で、県外向けプロモーションによる誘客促進、高知ものがわエリア観光博「ものべすと」の開催やゆかりの地を巡る企画等での周遊促進といった、旬のトピックスに対応した施策により旅行者で賑わいを見せた一年となった。

こうした状況の中で実施した、今年度の観光客動態調査で得られた県外旅行者の動向について分析した結果を報告する。

1. 関西圏での観光推進プロジェクトの影響についての考察

大阪・梅田のKITTE 大阪に開業したアンテナショップ「SUPER LOCAL SHOP とさとさ」と大阪・関西万博を最大限に活用した情報発信や外商拡大を目指す、第2期関西・高知経済連携強化戦略において、関西圏と連携した観光推進プロジェクトが展開されている中、どのような変化が起きているか本調査で把握できる分野について分析を試みた。

県外旅行者のうち、近畿を出発地とする旅行者が占める割合は、前年比で0.6ポイント減少の26.9%となった（表4-1）が、旅行目的別にみると、観光が前年比で1.1ポイントの増加、帰省・知人訪問が1.5ポイントの減少となっており、観光客の入込割合は微増となっている（表13-1）。

（表13-1）旅行目的別発地ブロック割合（ポイント）〔R7年とR6年の差〕

	北海道 ・東北	関東	北陸 ・新潟	甲信 ・東海	近畿	中国	四国	九州 ・沖縄	海外
ビジネス	-0.1	0.1	-0.1	0.1	0.0	0.1	0.0	0.1	0.0
観光	-0.4	0.9	-0.2	-0.1	1.1	0.9	0.1	0.4	0.2
帰省・知人訪問	-0.1	-0.7	-0.1	-0.1	-1.5	-0.2	0.0	-0.3	0.1
その他	0.0	0.1	0.0	-0.1	-0.2	0.0	0.2	0.0	0.0

また、近畿ブロックで入込の77.2%を占める大阪府と兵庫県（図4-4）について、動機（来県のきっかけとなった情報源）割合をみると、大阪府はインターネットが前年比で3.6ポイント、宣伝が1.8ポイント、PRが1.2ポイントと増加しており、兵庫県はインターネットが4.5ポイント、宣伝とPRがともに0.7ポイントの増加となっている（表13-2）。

(表 13-2) 観光目的の動機割合(ポイント) [R7 年と R6 年の差]

	知人・友人の話	前回のイメージ	宣伝(メディア等)	P R (パンフレット等)	インターネット	旅行業者の紹介	本人・家族の希望	帰省	その他
大阪府	-3.0	-0.5	1.8	1.2	3.6	-0.3	-3.2	0.3	0.3
兵庫県	0.2	-3.2	0.7	0.7	4.5	0.4	-4.5	0.4	0.8

以上の結果より、今年度の観光統計調査の結果においては、関西プロモーションによる影響と推察される際立った変化はみられないが、今後も継続される取り組みに期待を寄せたい。

2. アンパンマンミュージアムを訪れた旅行者についての考察

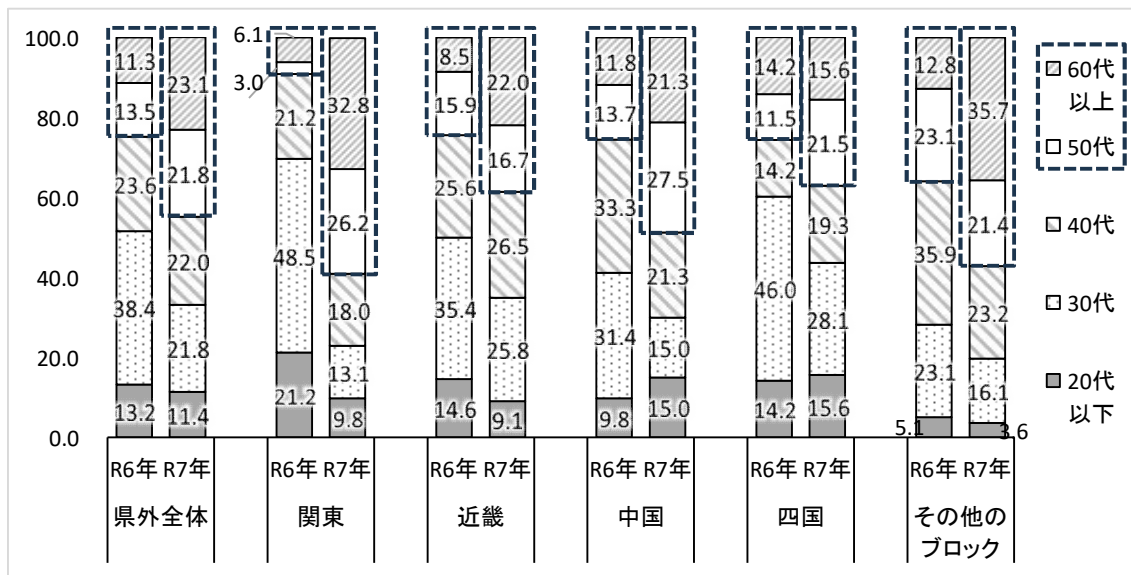
やなせたかし氏と妻の暢さんがモデルとなったNHK連続テレビ小説『あんぱん』の放送を受けて、さまざまな取り組みが進められた今年の物部川エリアには県内外から多くの旅行者が訪れた。その周遊観光の中心となった香美市立やなせたかし記念館アンパンマンミュージアムを訪れた県外旅行者（以下、AM立寄客）は、県外旅行者 3,137 組中の 464 組（14.8%）となり、前年比で 4.4 ポイントの増加と調査地点 10 地点でも最も多い増加率となった（表 13-3）。

(表 13-3) 調査地点 10 地点への県外旅行者の立寄割合(%)

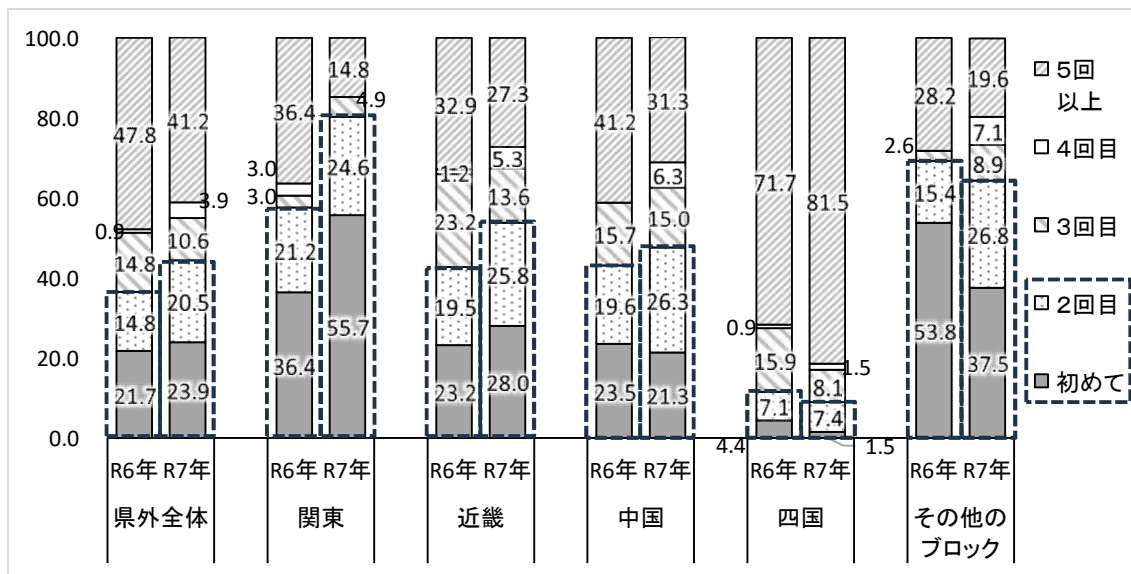
	室戸岬	モネの庭	アンパンマン	龍河洞	桂浜	高知城	土佐和紙工芸村	黒潮本陣	四万十川	足摺岬
R6年	18.2	11.1	10.4	15.6	31.6	23.1	11.0	6.2	16.7	17.0
R7年	17.0	11.9	14.8	15.7	32.9	22.8	8.8	8.3	15.4	16.9
対前年比	-1.2	0.8	4.4	0.1	1.3	-0.3	-2.2	2.1	-1.3	-0.1

AM立寄客の客層の変化について調べると、50代や60代以上が占める割合が増加（図 13-4）しており、関東では特にそれが顕著となっている。本人来県回数割合をみると、県外全体で初めてや2回目が増加、5回以上のリピータは減少となっている。特に関東では初めてが前年比で 19.3 ポイントと大きく増加、近畿や中国でも初めてや2回目が増加となっている（図 13-5）。

(図 13-4) 発地別年代割合(%) [AM立寄客のみ]



(表 13-5) 発地別本人来県回数割合(%) [AM立寄客のみ]



どのようなグループが訪れているか人数と同行者の関係を見ると、2人の家族の割合が前年比で17.4ポイントと大きく増加(表13-6)となっており、さらに2人家族の年代割合では、60代以上が16.5ポイントと大きく増加、50代も3.3ポイントの増加(表13-7)となっている。

(表 13-6) 人数別同行者割合(%) [AM立寄客のみ]

		家族	友人・知人	団体	その他
R 6 年	2人	16.9	4.6	0.0	0.3
	3~4人	56.0	0.3	0.0	0.0
	5人以上	21.5	0.3	0.0	0.0
R 7 年	2人	34.3	5.7	0.0	0.0
	3~4人	45.3	2.3	0.0	0.2
	5人以上	10.8	0.5	0.9	0.0
対 前 年 比	2人	17.4	1.1	0.0	-0.3
	3~4人	-10.7	2.0	0.0	0.2
	5人以上	-10.7	0.2	0.9	0.0

(表 13-7) 2人家族の年代割合(%) [AM立寄客のみ]

	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
R6年	15.7	13.7	17.6	29.4	23.5
R7年	5.3	8.7	13.3	32.7	40.0
対前年比	-10.4	-5.0	-4.3	3.3	16.5

続いて、AM立寄客の動向について調べると、1組あたりの平均立寄数は前年比で0.55件の増加となった。その寄与度は、高知市エリアが+0.32と半分以上を占めている。物部川エリアのうち香美市は+0.19となったが、南国市は±0.00、香南市は-0.02とエリア全体への波及はみられない(表 13-8)。具体的に上位を占めた立寄地点の変化をみると、ひろめ市場、高知城懐徳館、高知県立牧野植物園、北川村「モネの庭」マルモッタンなどが前年比で10ポイント前後の増加となっていることが目立つ(表 13-9)。

なお、本調査で立寄先として計上する地点には、単年開催のイベント会場や宿泊施設等が原則含まれず、土産物の購入や食事で利用される店舗等は道の駅等のごく少数に限られていることを留意点として付しておく。

(表 13-8) 旅行者1組あたりの平均立寄数(件) [AM立寄客のみ]

	R6年	R7年	対前年比
平均立寄数	1.42	1.97	0.55
南国市	0.05	0.05	0.00
香南市	0.13	0.11	-0.02
香美市	0.34	0.53	0.19
高知市エリア	0.76	1.08	0.32
安芸室戸エリア	0.09	0.23	0.14
仁淀川エリア	0.13	0.08	-0.05
嶺北エリア	0.00	0.01	0.01
高幡エリア	0.04	0.09	0.05
幡多エリア	0.04	0.11	0.07

(表 13-9) 立寄観光スポット(%) [R7 年の上位 10 地点・AM立寄客のみ]

地点名	R7年	R6年	対前年比
桂浜公園	29.3	24.5	4.8
ひろめ市場	25.2	14.5	10.7
龍河洞	18.3	14.8	3.5
高知城懷徳館	16.2	7.5	8.7
高知県立牧野植物園	11.9	3.5	8.4
日曜市	11.4	6.3	5.1
北川村「モネの庭」マルモッタン	10.1	2.2	7.9
高知県立のいち動物公園	7.3	11.0	-3.7
室戸岬	6.0	3.8	2.2
足摺岬	4.1	0.9	3.2

AM立寄客の県内消費額は前年比 4,032 円増加の 29,176 円、県内旅行日数は前年比 0.33 日減少の 2.04 日となった（表 13-10）。通常の場合は、県内旅行日数と県内消費額（特に宿泊費や飲食費）との間には正比例の関係があるが、今回調査では県内旅行日数は減少、宿泊費は増加と逆転現象が起きている。そこで主な旅行目的をみると、観光が前年比で 13.8 ポイントの増加、帰省・知人訪問が 12.5 ポイントの減少となっていることが分かる（表 13-11）。

(表 13-10) 県内平均消費額(円)・県内旅行日数(日) [AM立寄客のみ]

	宿泊費	飲食費	交通費	土産代	その他	合計	旅行日数
R6年	7,577	5,608	6,858	3,755	1,346	25,144	2.37
R7年	9,594	6,841	6,674	4,146	1,921	29,176	2.04
対前年比	2,017	1,233	-184	391	575	4,032	-0.33

(表 13-11) 旅行目的割合(%) [AM立寄客のみ]

	ビジネス	観光	帰省・ 知人訪問	その他
R6年	0.3	77.8	19.7	2.2
R7年	0.7	91.6	7.2	0.5
対前年比	0.4	13.8	-12.5	-1.7

以上の結果をまとめると、従来の主流なAM立寄客である帰省客も含めた二世帯・三世帯ファミリーに加え、朝ドラの中心視聴者層とも重なるミドル・シニア世代夫婦が多く訪れた影響などが、県外旅行者の全体に占めるAM立寄客の割合が前年比で 4.4 ポイントの増加となって表れたと考えられる。

そして、朝ドラ視聴をきっかけに関東や近畿から初めて来県したという旅行者が一定の割合を占めていると考えられ、その場合は“せっかく高知に行くのだから”という心理も作用し、宿泊施設を利用した 1 泊 2 日程度の日程でアンパンマンミュージアムとあわせ、

高知市エリアの代表的な観光スポットや同じ朝ドラの『らんまん』に関連したスポットも含め、広く周遊された可能性が高いのではないだろうか。このことから朝ドラを受けたさまざまな取り組みの効果は物部川エリア周辺のみには限定されず、県内の広範囲に影響が及んだことが推察される結果となっている。

3. 県内消費額についての考察

旅行の主要な目的が「観光」と回答した県外旅行者（n=2,702）の、消費額と旅行者の行程や属性について、求めた相関係数は以下の通り。「飲食費」と「土産代」、「県内宿泊数」と「宿泊費・飲食費・出発地からの距離」には正の相関が、「出発地からの距離」と「来県回数」には負の相関がみられる（表 13-12）。

（表 13-12）相関係数 [観光目的]

		消費額の費目				行程		属性（※）		
		宿泊費	土産代	飲食費	その他	県内宿泊数	立寄数	出発地からの距離	来県回数	回答者の年代
費目	宿泊費	1								
	土産代	0.289	1							
	飲食費	0.380	0.415	1						
	その他	0.120	0.037	0.098	1					
行程	県内宿泊数	0.558	0.294	0.564	0.196	1				
	立寄数	0.279	0.066	0.210	0.260	0.390	1			
属性*	出発地からの距離	0.325	0.214	0.319	0.078	0.456	0.224	1		
	来県回数	-0.301	-0.145	-0.226	-0.072	-0.314	-0.243	-0.469	1	
	回答者の年代	0.008	0.052	-0.044	-0.005	-0.003	0.038	-0.024	0.175	1

*「出発地からの距離」は出発地の都道府県庁所在地を基準とした直線距離の概算値。

「来県回数は」グループ全体で各個人の回答が得られている場合はグループの平均値。

得られていない場合は回答者個人の回答値。

※ 相関係数の大きさと相関の程度の尺度

-1.0 ≤ r < -0.7	-0.7 ≤ r < -0.4	-0.4 ≤ r < -0.2	-0.2 ≤ r ≤ 0.2	0.2 < r ≤ 0.4	0.4 < r ≤ 0.7	0.7 < r ≤ 1.0
強い負の相関	負の相関	弱い負の相関	ほとんど相関がない	弱い正の相関	正の相関	強い正の相関

相関係数を参考に、重回帰分析を行った結果は以下の通り。目的変数は「現地消費額（県内交通費を除く4費目の合計）」、説明変数は「県内宿泊数」「立寄数」「出発地からの距離」としている。

現地消費額は、県内宿泊数による影響を最も大きく影響を受け、一泊増えると11,580円増加、立寄数が一ヶ所増えると663円増加、出発地からの距離が1km増えると11円増加するという予測される結果となっている。

(表 13-13) 重回帰分析

回帰統計		係数	標準誤差	t	P-値	下限 95%	上限 95%
重相関 R	0.67187	切片	6379.0	721.8	8.84	0.000	4963.7 7794.3
重決定 R ²	0.45141	県内宿泊数(泊)	11579.8	329.5	35.14	0.000	10933.6 12225.9
補正 R ²	0.45080	立寄数(ヶ所)	662.5	224.4	2.95	0.003	222.6 1102.5
標準誤差	15420.54	出発地からの距離(km)	10.9	1.6	6.64	0.000	7.7 14.1
観測数	2702						

※ 重回帰式

$$\text{現地消費額} = 6,379 + (11,580 \times \text{県内宿泊数}) + (663 \times \text{立寄数}) + (11 \times \text{出発地からの距離})$$

高知県観光客アンケート調査票

- Q 1. あなたのお住まいはどこですか。国内にお住まいであれば都道府県名、海外であれば国名をご記入下さい。
また、高知県内にお住まいの場合は市町村名をご記入下さい。

(都道府県名: _____) 海外の場合 (国名: _____)

高知県内の場合
→ (市町村名 _____)

- Q 2. あなたの性別、年齢を選んで下さい。※それぞれ1つだけ

性別 : 1. 男性 2. 女性
年齢 : 1. 10歳未満 2. 10歳代 3. 20歳代 4. 30歳代 5. 40歳代
6. 50歳代 7. 60歳代 8. 70歳代 9. 80歳以上

- Q 3. 今回の旅行は日帰りですか、宿泊ですか。※1つだけ

宿泊であれば、何泊か、そのうち県内では何泊するか、いくつの施設に宿泊するかをご記入下さい。
また、県内ではどの地域の、どのような施設に何泊するかをご記入下さい。※いくつでも

1. 日帰り 2. 宿泊

宿泊した施設の数
↓
→ 宿泊数 _____ 泊 → そのうち県内 _____ 泊 ⇒ 県内宿泊施設数 _____ 施設

＜県内宿泊施設＞

- | | |
|-----------------------------------|-------------------|
| 1. 実家や知人・親戚宅 () 泊 | 2. 旅館 () 泊 |
| 3. ホテル () 泊 | 4. ペンション・民宿 () 泊 |
| 5. 保養所・研修所 () 泊 | 6. キャンプ場 () 泊 |
| 7. (キャンプ場以外の) 車中泊・交通機関内での宿泊 () 泊 | |
| 8. 別荘・リゾートマンション () 泊 | 9. 会員制の宿泊施設 () 泊 |
| 10. ユースホステル・ライダーズイン () 泊 | 11. 公共の宿 () 泊 |
| 12. その他 () 泊 | |

＜県内宿泊場所＞

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1. 東部地域 (東洋町～芸西村) () 泊 | 2. 中央東地域 (香南市～南国市) () 泊 |
| 3. 中央地域 (高知市) () 泊 | 4. 中央西地域 (いの町～仁淀川町) () 泊 |
| 5. 高幡地域 (須崎市～四万十町) () 泊 | 6. 幡多地域 (黒潮町～大月町) () 泊 |

- Q 4. 今回のご旅行の主要な目的は何ですか。※1つだけ

1. ビジネス
2. 観光

「2. 観光」を選んだ場合、今回のご旅行の主な目的を1つ教えてください。

01 自然見物・町歩き 02 休養・慰安 03 祭り・イベント
04 登山・アウトドア・キャンプ 05 スポーツ (プロ野球キャンプ・観戦など)
06 食べ物 (味覚・酒) 07 神仏・霊場巡り 08 買い物
09 名所旧跡・観光施設などの見学・行楽 10 なんとなく (ドライブ等含む)
11 ワークেশョン 12 その他 ()

3. 帰省・知人訪問
4. (1～3のどれでもない) その他

- Q 5. 今回のご旅行のきっかけを教えてください。

1. 知人・友人の話 2. 前回のイメージ 3. 宣伝 (TV・ラジオ・雑誌等)
4. PR (パンフレット・キャンペーン等) 5. インターネット (携帯電話含む)
6. 旅行業者の紹介・ツアー参加 7. 来たかった・家族の希望
8. 帰省 9. その他

Q6. 今回のご旅行の企画・手配について教えてください。

1. 自分で旅行プランを立てて、宿泊・交通機関なども自分で手配した
2. 旅行プランを決めて、宿泊や高知への往復には旅行代理店のフリープランを使っている
3. 旅行代理店でコースが決められている添乗員付きの旅行プランを使っている

Q7. あなたも含めて、何人での、どなたと一緒に旅行ですか。※子供や乳幼児も含む

() 人

2人以上の場合

→ 1. 家族 2. 友人 3. 職場・学校等の団体旅行 4. その他

Q8. ご一緒のみなさん全員の、今いる観光地の訪問が何回目かご存じですか。※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない 2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q9. (県外にお住まいの方のみお答え下さい)

あなたは、高知県の訪問が何回目ですか。

1. はじめて 2. 2回目 3. 3回目以上 () 回目

Q10. (県外にお住まいの方のみお答え下さい)

ご一緒のみなさん全員の、高知県の訪問が何回目かご存じですか。※回答の合計はQ7と一致

1. 知らない 2. 知っている → 1回目の人数 () 人、2回目の人数 () 人
3回目の人数 () 人、4回目以上の人数 () 人

Q11. 今回の旅行で訪れた県内の観光地と移動に用いた交通機関をご記入下さい。これから訪問する観光地についても予定をご記入下さい。※観光地は一覧表より、交通機関は下表より番号をお選び下さい。

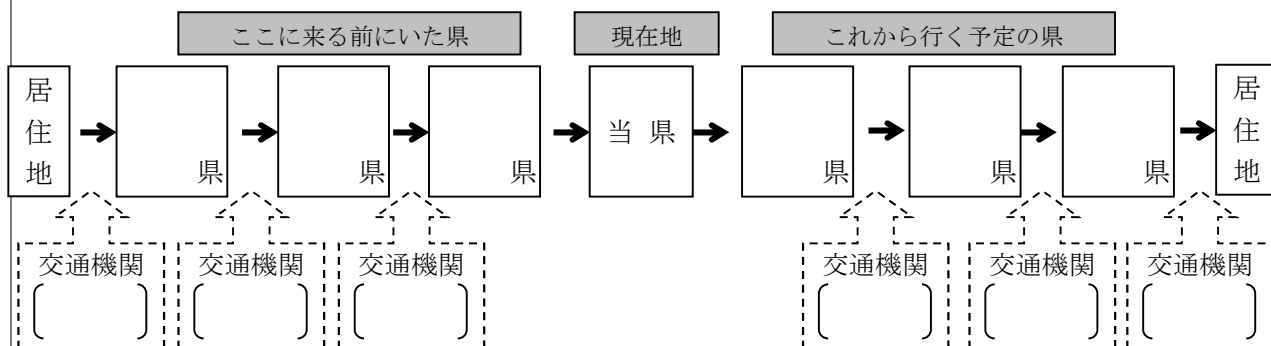
また、この県に訪れる前・後に立ち寄った(立ち寄る予定の)都道府県があれば記入下さい。

高知県までの主な交通機関		{ }		高知県内での主な交通機関		{ }						
ここに来る前にいた場所												
居住地	→		→		→		→		→		→	調査地点
		交通機関		交通機関		交通機関		交通機関		交通機関		交通機関
		{ }		{ }		{ }		{ }		{ }		{ }
これから行く予定の場所												
調査地点	→		→		→		→		→		→	居住地
		交通機関		交通機関		交通機関		交通機関		交通機関		交通機関
		{ }		{ }		{ }		{ }		{ }		{ }

【表】交通機関

- | | | | | |
|------------------------|-------------|-------------|---------------|------------|
| ① J R 新幹線 | ② J R 在来線 | ③ 私鉄・地下鉄 | ④ モノレール | ⑤ - 1 貸切バス |
| ⑤ - 2 観光バス (MY 遊バス等含む) | ⑥ 高速バス | ⑦ 市内バス・路線バス | | |
| ⑧ 路面電車 | ⑨ タクシー・ハイヤー | ⑩ レンタカー | ⑪ 自家用車、社用・公用車 | |
| ⑫ 飛行機 | ⑬ フェリー | ⑭ バイク | ⑮ その他 | |

当県以外に立ち寄り都道府県がある場合はご記入下さい



【表】交通機関

- ① J R 新幹線 ② J R 在来線 ③ 私鉄・地下鉄 ④ モノレール ⑤ - 1 貸切バス
 ⑤ - 2 観光バス (MY 遊バス等含む) ⑥ 高速バス ⑦ 市内バス・路線バス
 ⑧ 路面電車 ⑨ タクシー・ハイヤー ⑩ レンタカー ⑪ 自家用車、社用・公用車
 ⑫ 飛行機 ⑬ フェリー ⑭ バイク ⑮ その他

Q12. 今回の旅行で、使う費用（これから使う予定も含めて）を教えてください。

1人当たりの費用を、下欄の項目別にご記入下さい。

※ 交通費は高速料金やガソリン代や駐車場代を含め、県外・県内分を分けて記入

※ 今回の旅行がパック旅行である場合、費用が県内のみか、県外分を含むかを選択

※ ☐ ← 表内の回答がグループ合計の場合にはチェック

	使用費用		使用費用	
①交通費	(県内分)	円	(県外分)	円
②宿泊費	(県内分)	円		
③土産代	(県内分)	円		
④飲食費	(県内分)	円		
⑤入場料	(県内分)	円		
⑥その他	(県内分)	円		
⑦パック料金				円
			☐ 県内分のみ もしくは ☐ 県外分含む	

Q13. ご意見・ご感想（他県と比べて良い点、悪い点等もお聞かせ下さい）

※ 冬期は特に、この季節に高知へ来られた理由、高知の魅力など（冬季対策の参考意見として）をお聞かせ下さい

※調査票コード

1. 観_共通_日

都道府県	調査地点ID	調査年月日	調査時刻	ID
			:	

- ・高知県では、観光客の満足度向上のため、「おもてなしトイレ」や「おもてなしタクシー」の取組を進めています。

Q1 「おもてなしタクシー」をご存じですか。

1 知っている 2 知らなかった

Q2 「おもてなしタクシー」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしタクシー」の接客マナーについて

1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】〔 〕

Q3 「おもてなしトイレ」をご存知ですか。

1 知っている 2 知らなかった

Q4 「おもてなしトイレ」を利用したことがある方にお聞きします。

「おもてなしトイレ」の快適性について

1 大変良い 2 良い 3 ふつう 4 悪い 5 大変悪い

【理由】（ ）

- ・「どっぷり高知旅キャンペーン」について

Q5 「どっぷり高知旅キャンペーン」を聞いたことがありますか。

1 聞いたことがある 2 旅行中に聞いた 3 聞いたことがない

Q6 「どっぷり高知旅キャンペーン」を聞いたことがあるとお答えした方にお聞きします。

「どっぷり高知旅キャンペーン」とはどのようなキャンペーンかご存じですか。

1 知っている 2 知らない 3 その他〔 〕

Q7 高知の魅力は、何だと思いますか。

1 食 2 自然 3 歴史・文化 4 人との触れ合い 5 その他〔 〕

Q8 また高知を訪れたいと思いますか。

1 ぜひ訪れたい 2 そうは思わない

・高知駅前観光案内所「とさてらす」について

Q9 高知駅前の観光案内所「とさてらす」を利用したことはありますか。

1 利用した 2 知っていたが利用しなかった 3 知らなかった（初めて聞いた）ので利用していない

Q10 「とさてらす」を利用したことがある方にお聞きします。「とさてらす」での観光案内・おもてなしについて

1 大変良い 2 良い 3 普通 4 悪い 5 大変悪い

Q11 「とさてらす」にどのような機能があれば、さらに便利になると思いますか。

【自由記載】（ ）

・高知県では、本県の強みである豊かな自然環境を活かし、誰もが楽しむことができるサイクリングコースの環境整備等を進めています。

Q12 移動中の風景を楽しむことや、体を動かすことを目的に、旅行中、高知県内で自転車を利用しましたか？

※ご自身の自転車の利用やレンタル（電動自転車含む）等、利用形態や乗車時間は問いません。

1 利用した 2 利用していない

【理由】()